

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	衛生・公衆衛生学 Hygiene and Public Health	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>組織された地域社会の努力を通して、人々を疾病から守り、健康を保持・増進させるため、医学を含めた自然科学および関連する社会科学諸分野の手法を駆使して、人間社会の健康上の諸問題を解決することを目指す学問である公衆衛生学の概念と方法論を学ぶ。</p> <p>「健康」「予防」とその指標、人間を取り巻く自然・環境の様々な要因が集団や個人の健康に及ぼす影響などについて、疾病予防やヘルスプロモーションへのアプローチの方法等を踏まえ習得する。また、日本国内だけでなく世界にも目を向け、広く保健・医療・福祉のシステムの理解を目標に講義を行う。さらに、「集団の健康」について考え、それをよりよくするための課題を整理し、解決方向を見出す能力を持つことも目標とする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	衛生 公衆衛生 健康 疾病予防	学修教育目標	1. 公衆衛生学の基本的な概念が理解できる。 2. 「健康」と「予防」の意味とその指標が理解できる。 3. ヘルスプロモーションの概念とアプローチの方法が理解できる。 4. 公衆衛生の諸分野の概要が理解できる。
-------	--------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

衛生・公衆衛生の概念と方法論として、集団の健康や疾病予防について人間を取り巻く環境系を含めた公衆衛生学の基本的な知識を解説する。授業の前半、後半に授業内容の理解度を確認するための小テストを実施する。最終の授業では、集団の健康の保持・増進に関する課題として、疾病予防のあり方についてレポートをまとめる。復習では、授業毎のノートを整理し教科書の内容の振り返りを行い、理解が難しいことは授業や質疑応答の機会に積極的な質問を行い、知識の理解に努めることが望ましい。					
--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「疫学」や「保健統計学」、「公衆衛生看護学概論Ⅰ」、「学校保健論Ⅰ、Ⅱ」、「産業保健論Ⅰ、Ⅱ」、「健康教育論」と関連し、人の健康生活と保健領域および総合看護学Ⅱ領域における科目の学修内容を理解するための基礎となる。					
---	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
書名：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 著者名：神馬 征峰 出版社：医学書院	書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践		
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	集団の健康の保持・増進の考え方として、公衆衛生における疫学や疾病予防の方法論、ヘルスプロモーションの概念を理解する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	授業内容から学修課題を抽出し、課題の解決に取り組むことができる。	○
	② 計画力	授業内容や自身の学修課題を考え、課題に対して計画的な学修を実施することができる。	○
	③ 創造力	他の科目との関連性を見出し、衛生・公衆衛生学に関する知識の理解を深めることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	20	10				15	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	35	10	5					50
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力	20	10	5					35
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								
	専門職者として研鑽し続ける基本能力							15	15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<p>衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を十分に理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上を満たしている。</p>					<p>衛生・公衆衛生学を構成する疫学や疾病予防の方法論、集団の健康のあり方やヘルスプロモーションの概念を理解している。 人間を取り巻く環境系や集団と個人の健康との関係を理解している。 各項目の理解度が60%~80%である。</p>				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表				
回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	公衆衛生学概論 ①公衆衛生の概念 ・ 衛生学と公衆衛生学 ・ 健康とは ②公衆衛生の歴史	講義と質疑応答	復習：衛生学と公衆衛生学との違い、公衆衛生の概念と歴史を整理し、健康と環境との関係について復習する。	60
	授業の出席、受講態度を評価		予習：健康の指標や人口に関する統計指標と健康寿命の意味について予習する。	90
第2回 /	健康の指標 ①人口動態統計と人口静態統計 ②健康状態と受療状況 ③生命表と健康寿命	講義と質疑応答	復習：人口動態と人口静態との違いを整理し、健康状態と受療状況の現状、健康寿命に関連する新しい指標の意味について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：疫学や予防医学をはじめとした公衆衛生活動の主な内容について予習する。	60
第3回 /	疫学的方法、予防医学 ①疫学 ②健康の多要因と予防医学	講義と質疑応答	復習：公衆衛生学の主要な活動として、疫学的研究方法や予防医学の意味と社会における役割について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：人間を取り巻く環境や環境要因の分類について予習する。	60
第4回 /	環境保健 ①人間の環境 ②環境要因 ③公害と環境問題	講義と質疑応答	復習：人間と環境の関連について整理し、環境要因の分類や公害と環境問題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：近年の感染症の動向とその予防方法について予習する。	60
第5回 /	感染症とその予防 ①感染症とは、感染症の予防 ②感染症法 ③主要な感染症	小テスト 講義と質疑応答	復習：主要な感染症とその動向を整理し、予防対策に関わる感染症法について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：身の回りの食品の安全性や衛生管理、栄養摂取の現状について予習する。	60
第6回 /	食品保健と栄養 ①食品と健康、食中毒 ②食品の安全性の確保 ③栄養の現状	講義と質疑応答	復習：食品の安全と食中毒との関係について食品衛生管理の在り方を復習する。	90
	授業の出席、受講態度、小テストを評価		予習：健康教育の現状と課題として、ヘルスプロモーションの意味について予習する。	60
第7回 /	健康教育とヘルスプロモーション ①健康教育とは ②ヘルスプロモーションとは	講義と質疑応答	復習：健康教育の主な内容を整理し、ヘルスプロモーション活動の推進方法について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：健康日本21の内容と生活習慣病予防が健康の保持に果たす役割について予習する。	60
第8回 /	生活習慣病 ①生活習慣病の現状 ②健康日本21と健康増進法 ③健康と栄養 ・ 運動 ・ 休養 ・ たばこ	講義と質疑応答	復習：生活習慣病の主な内容と危険因子、健康増進法等の法令の変遷について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：国内外の医療制度や高齢者の保健、介護の問題について予習する。	60
第9回 /	医療の制度、高齢者医療 ①医療保障と医療保険、公費医療 ②高齢者保健と介護保険	講義と質疑応答	復習：医療制度の現状を整理し、高齢者保健と介護保険のもつ意味とその課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：地域における保健活動や医療サービスの提供体制について予習する。	60
第10回 /	地域保健活動 ①地域保健法と理念 ・ 医療サービスの提供体制 ②地域保健活動 ③救急・災害医療	講義と質疑応答	復習：地域保健の主要な活動と体制、地域における救急・災害医療の内容と課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：母子保健を構成する統計指標と保健施策について予習する。	60
第11回 /	母子保健 ①母子保健の統計 ②母子保健施策	小テスト 講義と質疑応答	復習：母子保健の施策の内容と変遷、女性の健康支援のための現状と課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度、小テストを評価、		予習：学校保健の関係法令、保健管理や感染症予防について予習する。	60
第12回 /	学校保健 ①学校保健とそれを支える関係法令 ②学校における保健管理、感染症予防、環境衛生 ③学校給食と食育	講義と質疑応答	復習：学校保健を支える養護教諭の役割や保健管理、環境衛生の在り方を整理し、食育の重要性について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：職業病や労働環境、労働衛生管理と健康状態との関係について予習する。	60
第13回 /	産業保健 ①労働環境と労働衛生管理 ②作業関連疾患とその予防、対策 ③トータルヘルスプロモーション	講義と質疑応答	復習：労働者の作業環境や衛生管理、新たな職業病の名称とその予防対策、職場における取り組みの在り方について復習する。	90
	授業の出席、受講態度を評価		予習：精神医療の歴史や関連する制度、国際的な保健医療の現状と課題について予習する。	60
第14回 /	精神保健福祉、国際保健 ①精神医療の歴史 ②精神保健福祉の諸制度と課題 ③国際保健の現状と課題 ④国際保健の担い手	講義と質疑応答	復習：精神保健福祉における医療制度の変遷と現状、将来へ向けての課題について復習する。	90
	授業の出席、受講態度、レポートを評価		国際保健の現状や医療制度を整理し、今後の国際保健医療の課題について復習する。	90
第15回 /	衛生・公衆衛生学としての総括	講義と質疑応答	復習：衛生・公衆衛生学で学習してきた知識やそれぞれの課題を整理し、公衆衛生の諸分野の概要を理解する。	90
	授業の出席、受講態度、レポートを評価			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	疫学 Epidemiology	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>疫学は集団の健康事象（疾病と健康）を記述し、これに関連する要因を発見しその要因への介入により疾病の発生と予防することを目的とした学問である。地域保健の基礎を形成する領域であり深く理解することが必要である。疫学は19世紀イギリスのコレラからはじまり、近年の新興感染症研究に至っているが、感染症のみに限らず生活習慣病の原因究明と介入に寄与している。</p> <p>本講義では、疫学の定義と歴史を学び、疫学で扱う基本的な指標、手法を理解するとともに、その実践例を学習する。また、その際の倫理的な問題点も理解し、看護研究や地域保健に応用できるような運用力も育成する。</p>
--------	--

キーワード	<p>疾病と生活の関連 生物統計と病气</p>	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の基本的な歴史と概念、考え方を習得できる。 2. 罹患率、有病割合、死亡率などの疫学に関する基礎的なデータの取り扱い方法を身につけることができる。 3. コホート研究や症例対照研究などの疫学研究の方法およびエビデンスについて理解し、運用できるようになる。 4. 各種疾病の疫学について理解することができる。
-------	-----------------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>様々な病気について、その原因や経過を探ることが疫学の基本と言える。様々な情報を用いて病気を社会的に解明するために、幅広い知識を統合・融合させる必要が有る。過去の疫学研究を知り、どのような情報をもとに疾病の真実に迫ったのかを考えられるように「柔らかい頭」を持つようにしてほしい。身の回りに起こるすべての事象について、なぜこの事象が起こったのかを常に考える癖をつけておいてほしい。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>社会保障論・統計学・医療概論・微生物学</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：疫学・保険統計学 第3版 著者名：牧本 清子・尾崎 米厚 他 出版社：医学書院</p>	<p>書名：国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	健康被害につながる科学的な根拠を見つけることができる。
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく主体的に参加する。
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	全ての健康問題には原因があることを理解する。
	② 計画力	健康問題解決能力をみにつける。
	③ 創造力	新興感染症等の疫学について興味を持てる。
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。
	③ 柔軟性	時には過去の常識すらも疑い、真実を追求できる。
	④ 状況把握力	氾濫する情報の中から必要な情報を選ぶことができる。
	⑤ 規律性	社会のルールや人との約束を守り、責任ある行動をとることができる。
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる。

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25					20	100
評価 の 指 標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								5	5
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		15	5					3	23
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5					3	23
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		13	3						16
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								2	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		2	2						4
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								2	2
	地域の健康危機管理能力		2	2						4
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								5	5
	専門的自立と継続的な質の向上能力		8	8						16
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
幅広い知識を統合・融合させることで、病気に関連する科学的な根拠を探し出すことが出来、健康問題解決のための方法を導き出すことが出来る。					疫学の基本的な歴史と概念が理解でき、罹患率、有病割合、死亡率などの疫学に関する基礎的なデータの取り扱いが出来る。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	疫学概念・集団の健康状態の把握 疫学とは何か 疾病の頻度の指標	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：指標としての比、割合、率の違いや求め方を示すことができる。	60
第2回 /	第1回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	疫学概念・集団の健康状態の把握 曝露効果の指標	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：罹患率、リスク比、オッズ比、寄与危険（度）の違いや求め方を示すことができる。	60
第4回 /	第3回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	疫学的研究方法 対象集団の選定 研究デザイン	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：研究デザインの違いについて示すことができる。	40
第6回 /	第5回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	疫学的研究方法 誤差・偏り 交絡とその制御・疫学における因果関係の立証	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：誤差、精度、妥当性、偏り、交絡について語る ことができる。	40
第8回 /	第7回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	疾病の予防トレーニングスクリーニング アウトブレイク時の疫学調査 スクリーニングの目的・要件・評価	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：スクリーニング検査による感度、特異度の 違いや求め方を示すことができる。	40
第10回 /	第9回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第11回 /	疾病登録 疾病登録の意義と目的・各疾患登録 主な疾患の疫学	講義	授業の復習および次回の講義の予習 課題：疾患登録による発生状況や特徴を語る ことができる。	60
第12回 /	第11回目の学習の問題と解答方法 解答シートの提出	講義	授業の復習および次回の講義の予習	60
第13回 /	第3回目の学習の問題と解答方法 小テスト	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	疫学のまとめ 全体の復習	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	疫学のまとめ 全体の復習	講義	授業の復習	40

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 学校保健	学校保健論 I Introduction of School Health I	1 単位	必修	講義	3 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>学校保健の目的は、学校教育に内在する福祉的機能（守る仕事）と教育的機能（育てる仕事）を統一的にとらえ、実践活動に反映されることによって達成される。よって、学校保健の目的は、1. 心身ともに健康な国民の育成、2. 教育を受ける権利（学習権・発達権）の保障、3. 児童・生徒の生存権・健康権の保障である。</p> <p>具体的な学校保健活動は、学校内外の諸活動を主要な領域として展開される教育活動で、子ども達の健康に関わる考え方や行動の仕方を育てることに重きを置き、取り組まれる活動と定義でき、その活動の中心的職責を担うのが養護教諭である。以前は、学校保健活動の一環として養護教諭を中心に保健指導が行われてきた。しかし、近年の養育環境や健康課題は多様化・深刻化し養護教諭の活動は拡大傾向にある。よって、本講義の目的は、個人や家族、地域の円滑な保健活動を推進するための基礎的知識を学修することにある。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	学校保健活動 健康教育 保健管理 環境問題	学修教育目標	学校生活の中で行われる学校保健の責務は何か、その内容や具体的な実践を理解する。個人や家族、地域の今日的な健康課題の解決のための保健学習の必要性が理解できる。学校現場における養護教諭の果たす役割が理解できる。
-------	--------------------------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

学校保健における健康教育は、子ども達の健全な発育発達と健康の維持増進に必要な知識の習得を目指している。また、近年は甚大な災害や重大な事件・事故が多発し、子ども達の安全教育も重要な課題となった。その他、環境問題や感染症、食中毒など子ども達を取り巻く社会環境は大きく変化し、生活習慣の悪化やモンスターペアレントの出現など家庭養育力も著しく低下した。このような諸問題を抱えている学校では、知識レベルの低い教員を受け入れたくないというのが率直な気持ちである。しかし、経験の浅い教育者に良いところは、若いからこそ元気に子どもの頃を覚えていたことや思い出せたことを基盤に懸命に取り組むことができる。よって、子ども達の健康や健やかな成長を願う教員としての資質を高かめ、経験不足を高い教養で補うためにも、基本的知識を段階的に展開するため、意欲的に取り組んでほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学校保健領域における健康教育は、発育発達期の子ども達の健康の保持増進と体力・運動能力向上に必要な知識として位置づけられており、発育発達学や小児スポーツ医学をはじめ、運動生理学や病理学、精神衛生学、公衆衛生学、環境学など広範な知識が基盤にあり、それぞれの基礎的知識を事前に有することで、より学習内容が理解できる。

教科書	参考書・リザーブブック
学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。	書名：学校保健ハンドブック 著者名：教員養成系大学保健協議会編 出版社：ぎょうせい

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	個人や家族、地域での健康生活の実態とその課題を理解する。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	個人や家族の将来的な健康獲得に必要なかつ適切なライフスタイルのあり方を学修する。	○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	学校現場や地域社会で重要な健康とライフスキルを展開、定着させる必要性を学修する。	◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	学校や地域社会において、健康の保持増進や疾患予防に関する健康教育介入の役割を理解する。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	学校という組織の中で健康を獲得するための方策の発信源として、どのような責務があるかを学修する。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	子ども達の健康観察力を高め、健康の維持増進と疾病予防に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	最新の医学的な情報を提供し、子どもや地域社会に発信できる能力を学修することができる。	○
	③ 実行力	知識（わかる）よりも行動（できる）を重視したライフスタイルの改善を指導することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	日常的に子ども達の学校生活を観察し、健康状態に的確に対応した保健指導ができるようになる。	◎
	② 計画力	ヘルスプロモーションの考え方から、健康教育を実践する具体策が提示できるよう実践力を獲得することができる。	○
	③ 創造力	「知識だけではだめ、意欲や態度が必要」と知識とは異なる情意的能力を開発することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	適切な健康生活確立に必要なライフスタイルのあり方をわかりやすく子ども達や家庭に伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	子ども達や保護者の自発的な申し出を最大限に引き出し、適切な対応ができる。	○
	③ 柔軟性	成長期に即した心の健康問題などの心身の変化について早期に発見して援助活動することができる。	○
	④ 状況把握力	健康問題や今日的課題について常に情報を得られるように心掛ける最適な行動をすることができる。	◎
	⑤ 規律性	集団としての自覚を深め、協力して、より良い生活を築こうとする自主的・実践的態度を育てることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	表情や行動の変化を確認しながら、メンタルヘルスへの悪影響を考慮することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	実施効果の速効性や効率化を追求するために非民主的運営を是正することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		50	30	20					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	10	5	10					25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	5	5						10
	特定の健康課題に対応する実践能力	10	5						15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	5	5						10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	10	5						15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力	5							5
	地域の健康危機管理能力	5	5	10					20
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<ul style="list-style-type: none"> 健康教育プログラムが好ましい結果を生み出すために綿密に計画され、子ども達が快適かつ安全な生活が営める健康教育が円滑に推進できる。 健康観察により把握された健康上問題のある子ども達に対し適切に健康指導できる。 保護者や地域社会に対し、疾病予防や養育環境に関し適切な助言をすることができる。 感染症対策や環境問題に積極的に取り組むことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> 健康教育プログラムが綿密に計画され、子ども達が安全な生活が営める健康教育が円滑に推進できる。 健康観察により把握された健康上問題のある子ども達に健康指導できる。 保護者や地域社会に対し、疾病予防や養育環境に情報発信できる。 				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	学校保健の目的とその意義 ①健康の考え方、学校保健の目的とその根拠 ②学校保健の歴史と行政、制度の変遷	法令を含めた健康教育の変遷について、配布資料を通読して、P.Pを中心とした講義を展開する。	健康教育の歴史と制度の変遷（復習）	20
	小テスト			
第2回 /	保健学習の課題とその評価 ①学習指導要領に基づく保健学習 ②養護教諭としての責務と力量形成	健康教育の変遷を通して、健康増進の必要性について、P.Pを中心とした講義を展開する。	健康増進の意義とその重要性（復習）	20
	小テスト			
第3回 /	学校における保健指導の位置づけ ①学校における保健指導の様々な機会 ②特別活動における保健指導	保健活動を含めた健康指導の問題点について、P.Pを中心とした講義を展開する。	学校生活や課外活動における健康指導（復習） 健康観察の必要性とその内容（予習）	40
	小テスト			
第4回 /	児童・生徒の健康観察とその評価 ①健康観察や健康診断の目的とその意義 ②健康評価と健康情報の活用	子ども達の健康問題を配布資料やP.Pを通して講義を展開する。	現在の子どもの生活習慣の現状（復習） 子ども達の体力の現状（予習）	40
	小テスト・レポートI			
第5回 /	児童・生徒の発育発達 ①発育発達の実態と体力の実態 ②健康づくりと体力づくりの課題	臨床的側面から子ども達の発育発達に関する諸問題を理解できるよう講義を展開する。	健康づくりと体力づくりの実際（復習） 子ども達の疾患の現状（予習）	40
	小テスト			
第6回 /	学校健診の意義 ①児童・生徒にみられる発育発達の評価 ②健康問題の現状とその対応	学校健診を通して様々な健康問題を把握し、健康指導の重要性が理解できるようP.Pや板書により講義を展開する。	最近の児童生徒の発育発達の現状と課題（復習）	20
	小テスト			
第7回 /	精神的健康に関わる諸問題とその対応 ①不登校・いじめの実態とその対応 ②精神的健康を維持するための基本的姿勢	非行や行動異常を含めた学校現場における精神的健康に関する諸問題を理解できるようP.Pや板書による講義を展開する。	精神面の健康障害者への指導と対応（復習）	20
	小テスト			
第8回 /	養護教諭の役割と責務 ①養護教諭の環境衛生管理の実際 ②保健室の運営と管理	養護教諭としての資質について理解できるよう、P.Pや板書により講義を展開する。	養護教諭を目指すには（復習）	20
	小テスト・レポートII			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 学校保健	学校保健論Ⅱ Introduction of School Health II	1単位	必修	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育という概念は学校の独自性というまでもなく、機能に密着したものと考えられる。よって、学校保健には、地域保健、公衆衛生学としての側面と教育科学としての観点から、学校保健の独自性は「学校保健は教育の場としての学校における保健活動であり、子どもたちが快適かつ安全に学校生活を営める能力を育む保健教育と教育活動を円滑に推進するための条件整備的な役割を担う保健管理である。」と定義できる。具体的には、保健室業務として日常的な疾病や不定愁訴への対応、健診計画の作成とその評価、応急処置など煩雑な職務が多い。また、学校保健委員会を基盤とした児童生徒や家庭、地域社会への健康指導と安全教育などの企画・運営も含まれる。よって、本講義の目的は、学校保健Ⅰで学修した基礎的知識を基盤に、ヘルシースクールの実践と家庭や地域社会のヘルシーライフに貢献できる資質を学修することにある。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	健康の維持増進 発達障害児や障害児の対応 感染症とその予防 環境教育と安全教育	学修教育目標	全ての児童生徒に健全な発育・発達を促すライフスキルの重要性を指導することができる。 児童生徒や家庭、地域社会の健康増進に有用な資料や情報が適切に活用できる。 家庭や地域社会がもつ知恵や技術力を活用し、健康問題解決に向けて機能させることができる。 養護教諭として健康プログラムが構築できるように学校と家庭・地域社会と連携させることができる。			
-------	--	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

社会が複雑になり健康問題が多様化し、健康に関わる知識は、依然より格段多くなり、以前にも増して複雑な問題を解決する能力が必要になってきている。養護教諭は児童生徒が、将来、出会うであろう地域社会や職場、医療の場で健康増進や疾病予防に貢献できる人材の育成が要求される。そのために、保健学習を通して最低限必要なリテラシーとなるに足り得る知識を修得し、複雑な問題解決能力を身につけることを目指して講義を展開します。そのため知識、理解を基礎としながらも、能力・技術の育成に重点を置き、講義内容を自らのあり方、生き方にまで発展させて考えられるようなヘルスプロモーションの設定や展開方法についてイメージしながら受講してほしい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

学校保健論Ⅰは子どもや家庭を重視した保健指導の在り方を重視して講義したが、学校保健論Ⅱでは、学校内の組織や地域社会の実態を把握し健康教育に展開するかが課題であり、行動学、社会学、心理学、栄養学、環境学などの基礎知識を有することで、より効率的に学習内容が理解できる。

教科書	参考書・リザーブドブック
学校保健必携より基本事項を抜粋し、毎時プリントを配布します。	書名：学校保健ハンドブック 著者名：教員養成系大学保健協議会編 出版社：ぎょうせい

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	児童生徒や家族のライフスタイルに積極的に適切な健康指導ができる。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	学校関係者や地域の人々を対象とした健康指導計画が作成できる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	学校現場や地域住民を対象にした将来的な健康生活が確立できる情報が発信できる。	○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	感染症予防や環境問題を視野に入れた健康教育を通して、個々人の健康意識を高めることができる。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康対策における社会的側面の重要性を強調したプログラムを開発することができる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自己の生活習慣を評価し、将来的なヘルシーライフに向けて行動変容をすることができる。	◎
	② 働きかけ力	自他の健康意識を意識することで、個々人に即したライフスタイルを提供することができる。	◎
	③ 実行力	健康課題を設定し、問題解決に向けた取り組みや支援を行うことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	学校内や家庭・地域での児童生徒の行動を綿密に観察することで健康課題を具現化することができる。	◎
	② 計画力	個々の健康観を通して、家庭や地域社会に密着した適切な健康プログラムを作成することができる。	○
	③ 創造力	学校の制度や地域社会の伝統や特性を理解し、独創的な健康指導を開発できる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	最新の健康情報から、情報提供すべき健康問題を「保健室通信」として発行することができる。	◎
	② 傾聴力	個々の心や身体の健康問題を正確に聴取し、適切なアドバイスや支援を行うことができる。	◎
	③ 柔軟性	健康問題のカウンセラーとして、自己の経験則に捉われずに問題解決の糸口を見つけることができる。	○
	④ 状況把握力	断片的な情報を結合・統合させ、より密度の高い知識のネットワーク（知識体系）を確立することができる。	○
	⑤ 規律性	集団が画一的な保健管理に属することなく、集団が達成可能な健康課題を設定することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	メンタルヘルスの観点から、理解よりも行動することを重視する課題を提示することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	行動変容をめざす健康教育を通して社会規範を遵守した健康行動が意識できるようになる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	20	30					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		10	5	10					25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5		5					10
	特定の健康課題に対応する実践能力		10	5						15
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		10	5						15
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5							5
	地域の健康危機管理能力		5	5	10					20
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力				5					5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性を発揮し、家庭、地域社会に密着した適切な健康プログラムが作成できる。 ・ 地域保健、公衆衛生学としての側面と教育科学としての側面をもった健康指導ができる。 ・ 子どもや家庭、地域の現状を把握した保健指導が適切にできる。 ・ 安全教育を目指した快適な保健室を管理運営することができる。 ・ 将来の自然災害や環境問題を発信し、地域の健康問題に取り組むことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育者としての立場で子どもの健康を保持増進する方策が考えられる。 ・ 家庭や地域社会を対象とした健康プログラムが作成できる。 ・ 子どもや家庭、地域を対象に保健指導ができる。 ・ 保健室を管理運営することができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	健康の保持増進に向けた健康教育 ①健康保持増進に向けた取り組み ②健康課題解決に向けた養護教諭の責務 小テスト	養護教諭として子供達の健康保持増進への取り組みについて理解できるよう、配布資料やP.Pにより講義を展開する。	心身の健康を維持増進する意義（復習） 校内の環境衛生の実態（予習）	20
第2回 /	学校内の環境衛生の意義 ①校内の環境衛生の現状と課題 ②校内環境の維持管理 小テスト	校内の環境問題を環境汚染の現状と課題をディスカッションを含めた講義を展開する。	学校内の環境衛生の必要性（復習） 性教育の現状と課題（予習）	20
第3回 /	性教育と死生観教育 ①性教育の必要性とその課題 ②生と死を考える教育の重要性と指導内容 小テスト	現在の性的問題や命の存在意義が理解できるよう、配布資料やP.Pにより講義を展開する。	LGBT や生きることの意義（復習） 障害児教育とは（予習）	40
第4回 /	障害児教育の現状と健康支援 ①障害児の発達支援とインクルーシブ教育 ②障害児支援における養護教諭の枠割 小テスト・レポートI提出	発達障害児を含めた特別支援教育の在り方が認識できるよう、配布資料、P.P、板書により講義を展開する。	養護教諭として障害児の理解と対応（復習） 感染症の予防対策と現状課題（予習）	40
第5回 /	感染症対策とその予防 ①感染症の現状と課題 ②将来的な感染症の発生とその対応 小テスト	過去からの感染症に対する医療現場の実績などを配布資料、P.P、板書により講義を展開する。	養護教諭として感染症の理解と対応（復習） 学校現場における食事故の実態（予習）	20
第6回 /	学校給食と食育の推進 ①学校における食育指導の意義 ②安全な食育指導の重要性と今後の課題 小テスト	栄養学的側面も含めて栄養指導や食事故の課題が理解できるよう、P.Pを中心とした講義を展開する。	栄養指導の必要性和健全な食習慣の推進（復習） 学校管理下の事故の実態（予習）	60
第7回 /	学校管理下における傷害予防と応急手当 ①日常的な傷害発生の現状と課題 ②傷害や急病の種類と応急手当の方法、心肺蘇生法 小テスト	日常的な急病や事故発生に対応できる資質を向上させるための具体的な応急処置法を資料やP.Pにより学修する。	障害児の健康維持とその対応（復習） 課題論文提出準備	60
第8回 /	安全管理と安全教育 ①研究課題の設定と独創的な健康教育の推進に向けて 課題論文提出	21世紀型の環境問題と安全教育の構築を視座にした安全教育の役割が理解できるよう本講義を総括する。	将来を見据えた安全教育と環境問題との関連（復習）	40

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 養護概説	養護概説 Introduction to School Nursing	2単位	必修	講義	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>近年、急速な技術革命が生み出したさまざまな社会変化により、生活環境や生活様式の変化、人間関係の希薄化など多くの問題が生じてきている。こうした中で、子どもの健康問題も複雑かつ深刻化し学校教育の中でも大きな課題となっている。養護概説では、こうした子ども達の健康問題を解決するために学校保健のなかでも、特に養護教諭の役割について学修する。</p>					
	キーワード	学校教育 学校保健 養護教諭	学修教育目標	<p>養護教諭の存在意義と歴史、専門性の考え方、養護教諭の活動過程、保健室の機能などについて、児童・生徒の健康実態と関連づけて理解することができる。</p>		
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>授業前半においては学校における養護教諭の概論を学び、後半においては具体的な職務内容を学ぶ。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>学校教育に関する基礎的知識を習得しておくことが望ましい。 関連する科目「学校保健論Ⅰ」「学校保健論Ⅱ」。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
<p>書名：新養護概説 著者名：采女 智津江 編 出版社：少年写真新聞社</p>				<p>書名：四訂養護概説 著者名：三木 とみ子 出版社：ぎょうせい</p>		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	養護教諭として子どもの健康を守り、家族、地域にどのように貢献できるかを知る。				○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	学校における児童、生徒、教職員の健康について管理、指導について学ぶ。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	学校生活のみならず家庭や地域での保健や健康について考えることのできる子どもを育成することが出来る養護教諭を目指す。				○
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	健康な生涯を送れるために必要な、基礎的知識を持つ子どもの育成を目標とする養護教諭であることを目指す。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	学校生活や家庭において子どもが健康に過ごすための基礎的な知識を身につける。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	学校保健への興味、関心を持つことができる。				○
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。				△
	③ 実行力	目的を設定し問題が解決するまで取り組むことができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	どのような健康問題が学齢期に起きているのかを知る。				○
	② 計画力					
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。				○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。				○
	② 傾聴力	相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。				○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。				○
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。				○
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを成長の機会と前向きに捉え葛藤を克服することができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	相手や周囲に対し道徳的に行動することができる				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合計
総合評価割合		50		40				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	10		5					15
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	15		5				5	25
	特定の健康課題に対応する実践能力	5		10				5	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	5							5
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	10		10					20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力	5		10					15
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
学校教育における養護教諭についての具体的な職務内容やあるべき養護教諭像を理解している。					学校教育の中での養護教諭の職務内容や理論を理解している。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 授業の進め方の説明 教育関係法令・学校教育と保健学校	講義	自分が通っていた小、中、高校の教育目標を調べる	30
第2回 /	養護教諭 制度の変遷・養護教諭と保健室・養護教諭の配置・職業倫理	講義	養護教諭の歴史や養護教諭の仕事調べる	30
第3回 /	子どもの現代的な健康課題とその対応 子どもの健康課題の推移 ヘルスプロモーションの理念を生かした健康教育の推進	講義	現代の子どもの健康課題を考える	30
第4回 /	養護教諭の職務 養護教諭の専門領域における職務内容 これから学校保健に求められている養護教諭の役割	講義	過去に経験した養護教諭の印象と自分が描く養護教諭像を書く	20
第5回 /	保健管理 学校における救急処置・健康診断・疾病管理・精神保健 学校環境衛生	講義	・自分が受けた健康診断について項目、結果など考察する ・学校で受けた救急処置を思い出し発表する	30
第6回 /	保健教育 教科保健・保健指導	講義・チーム活動	過去に受けた保健教育について書いて発表	30
第7回 /	健康相談 健康相談における教職員のそれぞれの役割・健康相談の進め方	講義・チーム活動 口頭発表	過去に受けた健康相談について書いて発表	20
第8回 /	保健室経営 保健室の機能と保健室経営・保健室経営の計画	講義	理想的な保健室を設計してみる	20
第9回 /	組織活動 学校における保健組織・学校保健委員会と養護教諭の役割	講義・チーム活動 口頭発表	児童生徒の委員会活動の内容を調べる	20
第10回 /	安全管理と危機管理 学校における危機管理の意義と基本的な考え方 危機管理の進め方・危機管理における養護教諭の役割	講義・チーム活動 口頭発表	過去に受けた安全教育について書いて発表 学校内の安全点検をする	30
第11回 /	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の役割と職務内容 法的根拠とその役割・職務内容	講義	学校医、学校薬剤師、学校歯科医の役割と実際の実践を e-Learning システムで調べる	30
第12回 /	子どもの発育・発達 幼児期から青年期までの発達の特徴	講義	各時期における発達の特徴を表にまとめる	50
第13回 /	子どもの心のケア PTSD の理解とその予防 ストレス症状のある子どもへの対応 災害時における子どもの心のケアの進め方	講義・チーム活動 口頭発表	PTSD はどんな場面で起きるか考える。またその時にどんな支援が必要か考える	30
第14回 /	学校における健康相談 健康相談の基本的な考え方・養護教諭の役割 カウンセリングの必要性	講義・チーム活動 口頭発表	事例を用いて実際にカウンセリングを体験し発表	50
第15回 /	全講義のまとめと養護教諭の未来像	講義	どのような養護教諭になりたいか考察する	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	保健指導論 Health Guidance Theory	2単位	必修	演習	3年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>本科目は、地域での公衆衛生看護活動の健康教育・健康相談・家庭訪問などの展開方法の基礎となる。講義では、医学的な意味の健康問題だけでなく、生活の問題としてのとらえ方や人々を支援する支援者としての態度を学ぶ。また知識の習得、健康問題の確認、その解決法の発見、健康の価値観の確立や態度および行動の変容、成果の確認や評価などの過程を理解する。</p>					
キーワード	保健指導、健康診査、健康相談	学修教育目標	<p>対象者が自らの健康問題に気付き主体的に解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・援助技術を選択し、介入することができる基礎的な理解をし、展開過程を考えることができる。 演習では、対象の特性に応じた個別指導や集団指導などの方法や技術が習得できることを目標とする。</p>			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教科書に沿って講義、グループワーク、演習を行う。授業の前半では、保健指導の形態や対象者に合わせた指導方法や内容について学修し、保健指導を展開していく基礎を学ぶ。授業後半では、グループに分かれ、保健指導の方法や具体的な内容について考え展開することをグループワークやデモンストレーションなどにより実技演習を行う。 教科書の内容のみならず、不足する情報や深く知りたい情報は、各自が調べておくようにすると、学修効果は高まる。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「健康教育論」「公衆衛生看護援助展開論」をはじめとする保健師選択課程必修科目と内容があらゆる分野に関連しているため、必ず既習したことを整理しておくこと。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：標準保健師講座 3 『対象別公衆衛生看護活動』 著者名：中谷 芳美 出版社：医学書院				書名：厚生指針 国民衛生の動向 著者名：厚生統計協会 出版社：厚生統計協会 書名：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 著者名：中村 裕美子 出版社：医学書院		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	保健指導が必要な対象について理解できる。				○
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	あらゆる年代のライフステージを考慮した保健指導を考えることができる。				○
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	継続的な保健指導が必要な対象について理解できる。				◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	対象者の生活背景や健康状態を結び付け全体像として捉えることができる。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	予防の視点や対象者に対し見通しをもった保健指導を考えることができる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業の予習、復習、課題や演習などに自ら主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力	相手に説明し理解を得るために行動して働きかけることができる。				○
	③ 実行力	目標達成に向けて、メンバーの力が発揮できるよう働きかけることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自ら情報収集を行いアセスメントし、問題や課題を見つけることができる。				◎
	② 計画力	出てきた問題や状況にその都度合わせた計画立てた学修ができる。				◎
	③ 創造力	パターンではなく、柔軟な発想や思考をすることができる。				◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	主体的に自分の考えや意見を述べるができる。				○
	② 傾聴力	メンバーの意見に耳を傾けることができる。				○
	③ 柔軟性	相手の意見に柔軟に取り入れることができる。				○
	④ 状況把握力	周りの状況を考えながら行動することができる。				◎
	⑤ 規律性	社会のルールや決まりごとを守ることができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じたら、自分の状況に自ら気づいて周りに報告や相談することができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	保健指導を実施する上での、看護職として倫理ある行動ができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		15	15			20	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		5						2	7
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		10		5	5			2	22
	特定の健康課題に対応する実践能力		5						2	7
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5						2	7
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								2	2
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力		5		5	5			2	17
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力		5		5	5			2	17
	地域の健康危機管理能力		5						2	7
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力		5						2	7
	専門的自立と継続的な質の向上能力		5						2	7
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>保健指導の必要な対象について十分に理解し、説明することができる。 保健指導を行う各形態について十分に理解し、適切な方法を選択し説明することができる。</p> <p>対象者の抱える問題や相談に応じた、適切な保健指導の展開ができる。 継続的な保健指導が必要かを考え、今後の見通しをアセスメントすることができる。</p>					<p>保健指導の必要な対象について理解し、説明することができる。 保健指導を行う各形態について理解し、適切な方法を選択することができる。 対象者の抱える問題や相談に応じた、保健指導の展開ができる。 継続的な保健指導が必要かどうかを考えることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	公衆衛生看護支援技術の特性 保健指導の目的と各接近方法の技法・技術の特色	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第2回 /	保健指導技術と展開 保健指導における役割と対象の選定と優先順位	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第3回 /	健康相談(1)	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第4回 /	健康相談(2) 妊産婦・乳幼児保健指導	講義・演習	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第5回 /	健康相談(3) 妊産婦・乳幼児健康診査と保健指導	講義・演習	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第6回 /	健康相談(4) 妊産婦・乳幼児保健指導に必要な社会資源の検討 (グループワーク)	講義・演習（グループワーク）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	グループワークへの参加意欲、グループ発表案			
第7回 /	健康相談(5) 妊産婦・乳幼児保健指導に必要な社会資源の発表 (グループ発表)	講義・演習（グループ発表）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	グループワーク内容や発表への参加、態度			
第8回 /	健康相談(6) 成人健康相談・特定健康診査と特定保健指導	講義・演習	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第9回 /	健康相談(7) 難病における健康相談	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第10回 /	健康相談(8) 精神保健における健康相談	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第11回 /	家庭訪問(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第12回 /	家庭訪問(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第13回 /	家庭訪問(2) 演習「乳幼児の家庭訪問指導内容の検討」(グループワーク)	演習（グループワーク）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第14回 /	家庭訪問(2) 演習「乳幼児の家庭訪問指導内容の検討」(グループワーク)	演習（グループワーク）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第15回 /	家庭訪問(3) 演習「乳幼児の家庭訪問指導の準備」(グループワーク)	演習（グループワーク）	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第16回 /	家庭訪問(3) 演習「乳幼児の家庭訪問指導の準備」(グループワーク)	演習(グループワーク)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第17回 /	家庭訪問(4) 演習「家庭訪問指導」発表	演習(プレゼンテーション)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第18回 /	家庭訪問(4) 演習「家庭訪問指導」発表	演習(プレゼンテーション)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第19回 /	家庭訪問(5) 家庭訪問指導実施の評価とまとめ	演習(プレゼンテーション)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第20回 /	家庭訪問(5) 家庭訪問指導実施の評価とまとめ	演習(プレゼンテーション)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	個人レポートおよび発表			
第21回 /	健康教育(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第22回 /	健康教育(1) ①技法と技術の実際 ②演習のオリエンテーション	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第23回 /	健康教育(2) 演習「健康教育企画書の検討」(グループワーク)	講義・演習(グループワーク)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第24回 /	健康教育(2) 演習「健康教育企画書の検討」(グループワーク)	演習(グループワーク)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第25回 /	健康教育(3) 演習「健康教育企画書の作成」(グループワーク)	演習(グループワーク)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第26回 /	健康教育(3) 演習「健康教育企画書の作成」(グループワーク)	演習(グループワーク)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	予習、グループワークの参加状況や意欲、態度			
第27回 /	健康教育(4) 健康教育の実施・評価	デモンストレーション	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	発表内容			
第28回 /	健康教育(4) 健康教育の実施・評価	実地演習(臨地)	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第29回 /	グループ支援 グループ支援の基本姿勢 健康課題別のグループ支援	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			
第30回 /	グループ支援 グループ支援の基本姿勢 健康課題別のグループ支援	講義	授業内容の予習・復習を行うこと。	30
	出席および参加意欲や態度			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 栄養学（食品学を含む。）	栄養学 Nutrition	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>人体の生命と健康を維持するために必要な食物と栄養素について学ぶ。食生活、食物、栄養摂取が生命維持と健康に果たす役割について、栄養過多・不足と病気との関連と治療への対策について学ぶ。幼児期、妊娠期、老年期等における栄養、経口摂取が困難な場合の栄養の取り方について解説する。</p>					
キーワード	人体の栄養と健康 栄養素 栄養学と看護 各ライフサイクルにおける栄養 栄養と疾病	学修教育目標	栄養素の吸収と代謝のメカニズムについて理解できる。栄養物として食物や栄養素摂取がどのように健康の維持に重要であるのかを理解し、実践できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>栄養学は生理学等とともに看護の基本となるので、栄養と健康との関係、栄養摂取・不摂取と疾病との関係を理解する。小テストや国家試験模擬試験などで覚えやすくするので、その都度覚えてほしい。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
生理学・生物学との関連が強い。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：系統看護学講座 人体の構造と機能(3) 栄養学 著者名：中村 丁次 他 出版社：医学書院			書名：五訂増補 日本食品成分表 第2版 著者名：医歯薬出版 出版社：医歯薬出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	栄養物として食物や栄養素摂取がどのように健康の維持に重要であるのかを理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。				○
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。				○
	② 計画力	計画的に学修内容を理解していける。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ○:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ○:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	30	15					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	55	30	15					100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力								
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
栄養学で現れる現象を理解し、疾病や看護技術との関連を理解できる。 国家試験問題に対して正答を出せる。					栄養学の個々の現象について理解できる。 疾病や看護技術との対応を理解できる。 関連の国家試験問題に正答を出せる。				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	栄養と栄養素 栄養と栄養素について概説。栄養学の意味と学習の目的を理解する。	講義	予習	30
第2回 /	医療・看護と栄養学 医療・看護における栄養学の重要性について理解する。	講義	予習・復習	30
第3回 /	栄養素の種類とはたらき（1） 各栄養素の種類とそれぞれの働き方について講義する。 ・炭水化物・糖質・食物繊維	講義・小テスト	予習・復習	30
第4回 /	栄養素の種類とはたらき（2） ・脂質・タンパク質	講義	予習・復習	30
第5回 /	栄養素の種類とはたらき（3） ・ビタミン・ミネラル・水	講義・小テスト	予習・復習	30
第6回 /	食品のエネルギー、エネルギー代謝とエネルギー消費 食品のエネルギー・エネルギー代謝の機構、エネルギー消費について	講義	予習・復習	30
第7回 /	食品のエネルギー、エネルギー代謝とエネルギー消費 食品のエネルギー・エネルギー代謝の機構、エネルギー消費について	講義・課題	予習・復習	30
第8回 /	栄養素の消化と吸収 各栄養素の消化と吸収について	講義	予習・復習	30
第9回 /	栄養素の体内代謝 各栄養素の体内における代謝について	講義	予習・復習	30
第10回 /	血糖・血漿中の脂質・アミノ酸・タンパク質 血糖及び血漿中における脂質・アミノ酸・タンパク質について	講義	予習・復習	30
第11回 /	栄養のケア・マネジメント 栄養のケア・マネジメントについて	講義・小テスト	予習・復習	30
第12回 /	ライフステージと栄養 乳幼児・学童期、青年・成人期、妊娠期、更年期・高齢期各ライフステージにおける栄養について	講義	予習・復習	30
第13回 /	臨床栄養 臨床における栄養について	講義	予習・復習	30
第14回 /	栄養と健康づくり 健康の基本となる栄養と健康の維持および栄養素欠乏・過剰症とその予防・治療について	講義	予習・復習	30
第15回 /	健康づくりと食生活 生活習慣病の予防、食生活の改善への施策、食の安全性と表示などについて	講義	復習・まとめ	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 解剖学・生理学	解剖生理学 I Human Anatomy and Physiology I	2単位	必修	講義	1年次	春学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	解剖生理学は医学の体系のなかでも最も基礎となる学問である。解剖生理学 I ではまず解剖生理学のための基礎知識および骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系についてそれぞれの形態と構造および機能を学ぶ。その知識がもとになって病気の成り立ちやさまざまな健康問題が理解できるようになる。この科目では関係が深い他の科目との関連性も含めて解剖生理学の諸知識を修得することを目的とする。					
キーワード	人体の構造と機能 器官 骨格 筋 脈管	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造や機能に関する用語とその意味を説明できる。 ・人体の種々の器官の位置関係や形状、内部構造を説明できる。 ・人体の種々の器官の機能や人体における役割を説明できる。 ・自身の体表から触知できる骨格、大きな筋、動脈などを説明できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
人体とは何かという解剖生理学を学ぶための基礎知識をまず理解し、身体の支持と運動、栄養の消化と吸収、呼吸と血液のはたらき、血液の循環とその調節などについて学修する。覚える事柄が多いので、必ず予習と復習をすること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
解剖生理学は、多くの専門基礎教育科目や専門教育科目と密接に関連しており、それらの科目を学修し理解するためにも必要な科目のひとつである。履修に必要な予備知識や技能は特にありません。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：系統看護学講座 解剖生理学 著者名：坂井 建雄／岡田 隆夫 出版社：医学書院			解剖生理学ワークブック 医学書院 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能(1) メディカ出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	人体の構造と機能について正しく理解する。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>人体の構造と機能に関する基本的知識を理解し、さまざまな他の科目の教科内容と関連づけて理解することができる。</p>					<p>人体の構造と機能に関する基本的知識を正しく理解することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	人体の構造と機能を学ぶために 解剖生理学を学ぶための基礎知識（1） 構造からみた人体 人体のさまざまな器官	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	解剖生理学を学ぶための基礎知識（2） 素材からみた人体	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	解剖生理学を学ぶための基礎知識（3） 機能からみた人体	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第4回 /	身体の支持と運動（1） 骨格系（i） ①骨と骨格 ②頭蓋 ③体幹の骨格	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	身体の支持と運動（2） 骨格系（ii） ①体肢の骨格 ②関節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	身体の支持と運動（3） 筋系（i） ①筋の種類 ②筋の機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	身体の支持と運動（4） 筋系（ii） ①身体の運動と骨格筋 ②骨格筋の解剖生理	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第8回 /	栄養の消化と吸収（1） 口・咽頭・食道の構造と機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	栄養の消化と吸収（2） 腹部消化管の構造と機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	栄養の消化と吸収（3） 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	呼吸と血液のはたらき（1） 呼吸器の構造	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第12回 /	呼吸と血液のはたらき（2） 呼吸	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	呼吸と血液のはたらき（3） 血液	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	血液の循環とその調節（1） 循環器系の構成、心臓の構造	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	血液の循環とその調節（2） 心臓の拍出機能	講義 小テスト	授業の復習	40

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 解剖学・生理学	解剖生理学Ⅱ Human Anatomy and Physiology II	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	解剖生理学は医学の体系のなかでも最も基礎となる学問である。解剖生理学Ⅱでは解剖生理学Ⅰに引き続き、循環器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、免疫系、生殖器系などの形態と構造および機能を学び、その知識がもとになって病気の成り立ちやさまざまな健康問題が理解できるようになる。この科目では関係が深い他科目との関連性も含めて解剖生理学の諸知識を修得することを目的とする。					
キーワード	人体の構造と機能 器官 骨格 筋 脈管	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造や機能に関する用語とその意味を説明できる。 ・人体の種々の器官の位置関係や形状、内部構造を説明できる。 ・人体の種々の器官の機能や人体における役割を説明できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
人体とは何かという解剖生理学を学ぶための基礎知識をまず理解し、血液の循環とその調節、体液の調節と尿の生成、内臓機能の調節、情報の受容と処理、外部環境からの防御、生殖・発生と老化のしくみ、体表からみた人体の構造などについて学修する。覚える事柄が多いので、必ず予習と復習をすること。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
解剖生理学は、多くの専門基礎教育科目や専門教育科目と密接に関連しており、それらの科目を学修し理解するためにも必要な科目のひとつである。履修に必要な予備知識や技能は特にありません。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
書名：系統看護学講座 解剖生理学 著者名：坂井 建雄／岡田 隆夫 出版社：医学書院			解剖生理学ワークブック 医学書院 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能(1) メディカ出版			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	人体の構造と機能について正しく理解する。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				◎
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				△
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
人体の構造と機能に関する基本的知識を理解し、さまざまな他の科目の教科内容と関連づけて理解することができる。					人体の構造と機能に関する基本的知識を正しく理解することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	血液の循環とその調節（3） 末梢循環系の構造	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	血液の循環とその調節（4） 血液の循環の調節、リンパとリンパ管	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	体液の調節と尿の生成（1） 腎臓、排尿路	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第4回 /	体液の調節と尿の生成（2） 体液の調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	内蔵機能の調節（1） 自律神経による調節、内分泌系による調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	内蔵機能の調節（2） 全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	内蔵機能の調節（3） ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第8回 /	情報の受容と処理（1） 神経系の構造と機能、脊髄と脳、	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	情報の受容と処理（2） 脊髄神経と脳神経、脳の高次機能	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	情報の受容と処理（3） 運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	情報の受容と処理（4） 眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第12回 /	身体機能の防御と適応（1） 皮膚の構造と機能、生体の防御機構	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	身体機能の防御と適応（2） 代謝と運動、体温とその調節	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	生殖・発生と老化のしくみ（1） 男性生殖器、女性生殖器	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	生殖・発生と老化のしくみ（2） 受精と胎児の発生、成長と老化	講義 小テスト	授業の復習	40

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」	微生物学 Microbiology	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>看護師は医師以上に患者と接触する機会が多い。従って、常に自身が感染症に罹患したり、媒介したりするリスクに晒されている。このリスクを最大限に減らすことが求められる。このために日常業務での感染に対する注意意識、滅菌・消毒などによる感染予防、患者への保健指導などが重要である。そのために病原微生物の性質など微生物学の基本的な知識を知り、的確な行動ができるようになることが目的である。</p>					
	キーワード	微生物、病原微生物、感染、発症、滅菌、化学療法	学修教育目標	<p>学修目的を達成するために、病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。</p>		

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>微生物とヒトとの係わり、微生物の性質、感染と感染症、感染に対する生体防御機構、感染症の検査・診断・治療、感染症の予防、感染症の現状と対策、感染症の疫学、細菌と疾患、主なウイルス性疾患 真菌感染症と原虫感染症などについて学修する。病原微生物についてそれぞれの特徴と違いを整理して理解すること。</p>
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>疾病論、薬理学、および感染症と係わりのある看護の全7領域と関連がある。予備知識としては、生物学が必要である。</p>

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 (4) 微生物学 著者名：南嶋 洋一、吉田 真一 出版社：医学書院</p>	<p>書名：シンプル微生物学 著者名：東 匡伸、小熊 恵二 出版社：南江堂 書名：はじめの一步のイラスト感染症・微生物学 著者名：本田 武司 編 出版社：羊土社</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を守る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律、を理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”(学修)を進めることができる。	◎
	③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	△
	③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	○
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	○
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考えて責任ある模範となる行動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	△
4. 倫理観	① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合		55	25	20					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	30	10	10					50
	特定の健康課題に対応する実践能力	10	5	5					20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	10	5	5					20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	5	5						10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<p>病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を護る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律を理解し、看護の実践に活かすことができる。</p>					<p>病原微生物の基本的な性状、感染・発症のメカニズム、滅菌と消毒、感染から体を護る免疫のしくみ、地球レベルでの感染症と社会の関係、個々の病原微生物と感染症の特色、化学療法、感染症に関する法律を理解できる。</p>				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	微生物とヒト	講義	予習	30
第2回 /	微生物の性質—構造・増殖など（1）	講義	復習・予習	30
第3回 /	微生物の性質—構造・増殖など（2）	講義	復習・予習	30
第4回 /	微生物の性質—構造・増殖など（3）	講義 小テスト	復習・予習	30
第5回 /	感染と感染症	講義	復習・予習	30
第6回 /	感染に対する生体防御機構（1）	講義	復習・予習	30
第7回 /	感染に対する生体防御機構（2）	講義	復習・予習	30
第8回 /	感染に対する生体防御機構（3）	講義 小テスト	復習・予習	30
第9回 /	感染症の検査・診断・治療	講義	復習・予習	30
第10回 /	感染症の予防	講義	復習・予習	30
第11回 /	感染症の現状と対策	講義 小テスト	復習・予習	30
第12回 /	感染症の疫学	講義 小テスト	復習・予習	30
第13回 /	病原微生物各論（1）細菌と疾患、真菌および原虫感染症	講義	復習・予習	30
第14回 /	病原微生物各論（2）細菌と疾患、真菌および原虫感染症	講義	復習・予習	30
第15回 /	病原微生物各論（3）主なウイルス性疾患	講義	復習と全体のまとめ	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」	免疫学 Immunology	1単位	選 択	講 義	2年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>生体にとって重要な機能を持つ免疫が関与する、生体内で起こる現象について学ぶ。液性免疫、細胞性免疫、抗体産生、抗体分子の構造と機能、抗原認識機構と免疫応答、免疫系の細胞とその働き、免疫による感染防御のメカニズム、自己非自己の認識、輸血や臓器移植と免疫機構の関係、アレルギー、ワクチン、自己免疫疾患、免疫不全等について解説する</p>					
キーワード	液性免疫 細胞性免疫 抗体の構造と機能 アレルギー 感染防御 自己免疫疾患	学修教育目標	免疫機構が関与する様々な生体内で起こる現象について看護の実践との関わりの面において理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>免疫学は看護にとって重要となるので、その基本現象、疾病や看護技術との関連を理解する。小テストや国家試験模擬試験などで覚えやすくするので、その都度覚えてほしい。分からないことがあれば、授業内・授業外を問わず質問し、解決しておくこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
<p>生物学・生理学との関連がある。</p>						
教科書				参考書・リザーブドブック		
書名：一目でわかる免疫学 第4版 著者名：J・H・L プレーフェアー 他 出版社：メディカル・サイエンスインターナショナル				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践					
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践					
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	免疫機構が関与する様々な生体内で起こる現象について看護の実践との関わりの面において理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	授業準備、課題、小テストなどに主体的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力					
	③ 実行力	積極的に自分自身で予習して理解することができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	分かることを明確にして課題や小テストに取り組める。				○
	② 計画力	計画的に学修内容を理解していける。				○
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力	他者の意見や説明を丁寧に聞いて理解できる。				○
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性					

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30	11					100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		59	30	11					100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
免疫学のあらゆる現象を理解し、疾病や看護技術との関連を理解できる。 国家試験問題に対して正答を出せる。					免疫学の個々の現象について理解できる。 疾病や看護技術との対応を理解できる。 関連の国家試験問題に正答を出せる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	免疫学とは何か？ 免疫学の概説。学習の目的を理解する。	講義	予習	30
第2回 /	免疫系の細胞 免疫系の細胞の分化と働きについて	講義	予習・復習	30
第3回 /	抗体分子の構造と機能・抗原認識機構 抗体分子の構造と機能、抗原認識機構について理解する。	講義	予習・復習	30
第4回 /	免疫による感染防御のメカニズム 免疫によって感染防御がどのようになされるか理解する。	講義	予習・復習	30
第5回 /	アレルギー・ワクチン アレルギーのメカニズム、ワクチンの働きについて理解する。	講義 小テスト	予習・復習	30
第6回 /	輸血・臓器移植と免疫 輸血や臓器移植をした場合の免疫について	講義	予習・復習	30
第7回 /	免疫不全・自己免疫疾患 免疫不全、自己免疫疾患について	講義・小テスト	予習・復習	30
第8回 /	免疫系疾患と治療 免疫系疾患と治療について	講義	復習	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」	薬理学 Pharmacology	2単位	選 択	講 義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	疾病の治療、予防および診断の目的で用いられる薬物（化学物質）が生体にどのように働き、どのような影響を及ぼすかを明らかにする薬理学の知識は看護職者にとって不可欠である。本教科では、薬物の作用機序、生体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）、副作用、毒性、薬物併用による相互作用、使用の際の注意事項などを理解することを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	薬が作用するしくみ（薬力学） 薬の体内の挙動（薬物動態学） 薬物相互作用 薬物使用の有益性と危険性 薬と法律	学修教育目標	1) 薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解する。 2) 臨床における薬物治療の基礎知識を習得する。			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

薬理学の基礎知識をまず習得し、抗感染症薬、抗がん薬、免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬、末梢での皮膚科用薬・眼科用薬神経活動に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、心臓・血管系に作用する薬物、呼吸器・消化器・生殖系系に作用する薬物、物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、消毒薬などについて学修する。多くの薬物について理解し、覚える必要があるので必ず、予習・復習を欠かさないようにしてください。						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

薬物治療や疾病の予防に関する知識は、看護学部のすべての領域で必要とされるものであるため、正しく理解し習得して下さい。薬理学は大学で初めて習う科目であるため、予備知識や技能はそれほど必要ありませんが、解剖生理学の知識や計算能力は身につけておいて下さい。						
---	--	--	--	--	--	--

教 科 書			参考書・リザーブブック			
書 名：系統看護学講座 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 著者名：吉岡 充弘／泉 剛／井関 健／横式 尚司／菅原 満 出版社：医学書院			書 名：今日の治療薬 2024 著者名：伊豆津 宏二 編集 出版社：南江堂			

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践					
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	さまざまな年代の人々に対する薬物治療や疾病予防に関する知識をよく理解し習得すること。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	疾病予防や薬物治療に関する知識をよく理解し習得すること。				○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	健康管理や疾病予防に関する薬物の知識をよく理解し習得すること。				△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	受け身ではなく積極的な姿勢で授業に臨むことができる。				◎
	② 働きかけ力	他者に積極的に質問や相談、提案をすることができる。				○
	③ 実行力	自身が計画したことを成し遂げることができる。				◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	問題意識を常にもち、課題について整理し、取り組むことができる。				○
	② 計画力	問題解決のために、適切な計画を立てることができる。				○
	③ 創造力	問題解決にあたり、さまざまな思考をすることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	必要な時に自分の考えを表現できる。				○
	② 傾聴力	他の人の考えを理解しようと心がけることができる。				○
	③ 柔軟性	困ったときなどは、それを機会に学ぶ姿勢がもてる。				○
	④ 状況把握力	さまざまな状況を把握し、的確な判断ができる。				○
	⑤ 規律性	チームでの規律を尊重することができる。				○
	⑥ ストレスコントロール力	さまざまなストレスに対して対応できる力を養うことができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	生命の尊厳を理解し、個人情報を含め人格を尊重することができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合計
総合評価割合			55	25	10				10	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		55	25	10				10	100
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力									
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
すべての薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解し、また臨床における薬物治療の知識を習得していること。					薬物の作用機序・特徴および生体に及ぼす諸作用を理解し、また臨床における薬物治療の基礎知識を習得していること。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	第1部 薬理学総論 第1章 薬理学を学ぶにあたって 薬物治療と看護 薬理学とはなにか	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第2回 /	第2章 薬理学の基礎知識 薬が作用するしくみ（薬力学） 薬の体内動態（薬物動態学） 薬物相互作用 薬効の個人差に影響する因子 薬物使用の有益性と危険性 薬と法律 物質としての薬物の分類	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第3回 /	第2部 薬理学各論 第3章 抗感染症薬 感染症治療に関する基礎事項 抗菌薬 抗真菌薬・抗ウイルス薬・ 抗寄生虫薬 感染症の治療における問題点	講義	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第4回 /	第4章 抗がん薬 がん治療に関する基礎事項 抗がん薬の種類	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第5回 /	第5章 免疫治療薬 免疫系の基礎知識 免疫抑制薬 免疫増強薬・予防接種薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第6回 /	第6章 アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 抗炎症薬 関節リウマチ治療薬 痛風・高尿酸血症治療薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第7回 /	第7章 末梢での神経活動に作用する薬物 神経系による情報伝達と薬物 交感神経作用薬 副交感神経作用薬 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第8回 /	第8章 中枢神経系に作用する薬物 中枢神経系のはたらきと薬物 全身麻酔薬 催眠薬・抗不安薬 抗精神病薬 抗うつ薬・気分安定薬 パーキンソン症候群治療薬 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬 片頭痛治療薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第9回 /	第9章 循環器系に作用する薬物 降圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 利尿薬 脂質異常症治療薬 血液凝固系・線溶系に作用する薬物 血液に作用する薬物	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第10回 /	第10章 呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物 消化器系に作用する薬物 生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第11回 /	第11章 物質代謝に作用する薬物 ホルモンとホルモン拮抗薬 治療薬としてのビタミン	講義	授業の復習および次回の講義の予習 小テストへの準備	60
第12回 /	第12章 皮膚科用薬・眼科用薬 皮膚に使用する薬物 眼科用薬	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第13回 /	第13章 救急の際に使用される薬物 救急に用いられる薬物 急性中毒に対する薬物	講義 小テスト	授業の復習および次回の講義の予習	40
第14回 /	第14章 漢方薬 漢方医学の基礎知識 漢方薬各論	講義	授業の復習および次回の講義の予習	40
第15回 /	第15章 消毒薬 消毒薬とは 消毒薬の適用 付章 輸液製剤・輸血剤	講義	授業の復習	40

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 精神保健	精神看護学概論 Introduction to Psychiatric and Mental Health Nursing	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>精神看護学は、人間の精神の健康に関する仕組みを追及し、精神の健康の保持増進および疾病の予防を図るとともに、精神に障がいのある人々がその人らしい生き方ができるように援助活動を実践、開発する科学である。</p> <p>本科目においては、精神看護の目的、機能と役割を理解し、社会状況の変化をとらえ、ライフサイクルにおける精神の健康問題の課題および看護の対象について理解し、精神看護に必要な基礎的知識を修得することができるようになる。</p>
--------	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康の定義 ・精神障害の捉え方 ・心のしくみ ・人格形成 ・ストレスと危機反応 ・精神看護の変遷 	学修教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間の心と社会の変化をとらえ、精神看護の目的、機能と役割について述べることができる。 2) 人間の精神の機能と構造を理解して環境への適応、ストレスや危機とその対応を記述できる。 3) ライフサイクルにおける精神の健康問題について記述できる。 4) 精神に障がいのある人の理解と家族の心理について記述できる。
-------	---	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

講義の前半は精神の健康とは何かということを軸に、著名な理論家を用いて精神分析の観点から心の仕組みと人格の発達について学修する。またストレスが精神の健康へ与える影響と対処方法（コーピング）、および予防の観点を学修していく。中盤に精神に障がいのある人の治療の歴史などを含め、精神障がいの方に対する偏見や人権擁護、家族との絆の再生などの理解を深めていく。家族看護の視点も含めて理解できるように講義を行う。

後半は近年の起りやすい健康問題に焦点を当て、精神看護とは何か、対象にどのような援助が求められるのかなど、前半の内容を踏まえ、応用的な講義を展開し、精神看護学の概要を学修する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

パーソナリティーの形成、心の発達、発達段階については看護の対象理解として基本的な部分である。1年次春学期において基本教養科目「人間のこころ」人間の健康生活と保健「発達心理学」を履修しており関連が深い。復習をかねて予備知識を持っておくとさらに理解しやすい。

教科書	参考書・リザーブブック
<p>書名：系統看護学講座 精神看護の基礎① 精神看護の展開②</p> <p>著者名：武井麻子</p> <p>出版社：医学書院</p> <p>講義内容によってはプリントを利用する。</p>	<p>書名：精神看護学 学生—患者のストーリーで綴る実習展開</p> <p>著者名：田中美恵子 編著</p> <p>出版社：医歯薬出版株式会社</p> <p>書名：看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術</p> <p>著者名：山本勝則ほか 編著</p> <p>出版社：株式会社メデカルフレンド社</p>

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団・域を対象とする看護実践	精神に障がいをもつ人および家族の包括的な理解が出来る。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	ライフサイクルにおける精神の健康問題について理解できる。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	精神看護の実践の場と継続看護について理解できる。	◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	パーソナリティーの形成と環境への適応—ストレスによる危機反応・ストレングスモデルを理解できる。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	ストレスの対処と予防について理解できる。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、自らの意思で積極的に学修を進め、“学び”に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	看護を必要とする対象に、協働して健康問題に取り組むよう声をかけることができ、自らの実践に加えて、指導者・教員・グループメンバーなど周囲を巻き込んで“学び”（学修）を進めることができる。	◎
	③ 実行力	対象の個別状況に即して目標や計画を変化させ、事故・感染防止に留意しながら、確実に看護を実践し、問題が解決するまで取り組むことができる。	○
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	対象の身体面、心理・社会的側面を踏まえて現状を分析することができ、対象に必要な健康上の問題について明らかにすることができる。	◎
	② 計画力	対象の健康上の問題を解決するために、その個別状況に即した具体的・実践的な解決の方法を明らかにすることができる。	○
	③ 創造力	対象の個別状況の変化や看護実践の成果をふまえて、看護実践をより効果的・発展的に展開するため、感性を活かした新たな介入方法を提案することができる。	◎
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	指導者・教員の指導場面やグループメンバーとの話し合いの場面で、自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいようにその反応をみながら、スピードや言葉遣いに配慮し、筋道を立てて伝えることができる。	◎
	② 傾聴力	相手の発言を促す質問をしたり、合視して相槌をうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して話しやすい雰囲気を作り、相手の意見や考えを最大限引き出し、丁寧に聴くことができる。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく、意見の違いや立場の違いを理解し、冷静かつ円滑な議論を通して、最終的には決まった方針に従い、最善の結果が出るように努力することができる。	◎
	④ 状況把握力	多方面の事実状況から、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解し、全体的な視点で、自分の果たすべき役割を把握し、他職者との連携を視野に入れて、チームにとって最適な行動を実行できる。	◎
	⑤ 規律性	社会人として、さまざまな場面での良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守り、自らの行動だけでなく、周囲への影響を考慮して責任ある模範となる行動をとることができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスの発生源になる事態が生じたとき、その原因を自ら突き止めて取り除いたり、適切な人に支援を求めるなどにより、葛藤を克服することができる。ストレスを成長の機会と前向きに捉えることができる。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	絶えず相手の立場にたって、対象に不利益や苦痛が生じないように、意思決定や権利を遵守し、自己批判を繰り返しながら行動することができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			59	30	8				3	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		39	10	2				1	52
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		5	5						10
	特定の健康課題に対応する実践能力		5	5	2					12
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力		5	5					1	11
	専門職者として研鑽し続ける基本能力		5	5						10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力				2					2
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力				2					2
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力								1	1
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
学修教育目標に対して 80%以上理解できる。					学修教育目標に対して 60%以上 80%未満理解できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間（分）
第1回 /	本科目のオリエンテーション ・精神看護学の位置づけ ・精神看護学の基本的な考え方 ・精神の健康の定義(WHO、中井による) ・国際生活機能分類(ICF)の考え方	講義	復習： ・精神看護学の基本的な考え方が理解できる。 ・ICFの考え方が理解できる。 ・学生自身の精神の健康状態について説明でき、成長するための課題を記述できる。	30
第2回 /	人間の心の諸活動 ・意識と認知機能	講義	復習： 人間の心の諸活動について理解できる。	30
第3回 /	心の仕組みと人格の発達 ・人格と気質 ・自我の構造 精神分析と精神力動論 ・不安と防衛機制	講義	復習： 心の仕組みと人格の発展について理解できる。	30
第4回 /	ライフサイクルと心の発達 ・様々な発達理論 ・エリクソン 対象関係論 愛着理論 自己愛とコフォート	講義	復習： 様々な発達理論とその理論家について理解できる。	30
第5回 /	心の健康とストレス① ・ストレスとは ストレス理論 ・ストレスへの対処—コーピング	講義	復習： ・ストレスマネジメントについて記述できる。 ・ストレスが精神障がいの発症に関連していることが理解できる。	30
第6回 /	心の健康とストレス② ・心的外傷(トラウマ)と回復 ・リカバリー(回復)を支える力—レジリエンスとストレングスモデル	講義	復習： ・心的外傷について理解できる ・リカバリー、レジリエンスストレングスモデルについて理解できる。	30
第7回 /	システムとしての人間関係 ・家族システム	講義	復習： 精神看護学の家族について理解できる。	30
第8回 /	人間と集団 ・グループによる治療介入 ・セルフヘルプグループ ・グループダイナミクス	講義 小テスト(30分)	復習： なぜグループなのかについて理解し、グループが回復を支えることが理解できる。	30
第9回 /	精神を病むことと生きること レポート提出	視聴覚教材 講義	課題： 視聴覚内容から精神を病むことと生きることについてレポートを作成することができる。	60
第10回 /	精神看護学の対象者の理解 ・疾病と病 ・さまざまな精神症状—思考・感情・意欲・知覚・意識・記憶・局在症状 レポートの内容	講義（当事者参加授業）	復習： さまざまな精神書状について理解できる。	60
第11回 /	精神障がいの診断と分類 ・医学モデルから生物・心理・社会モデルへ ・代表的な精神疾患	講義	復習： ・医学モデルから生物・心理・社会モデルが理解できる。 ・代表的な精神疾患について概要を理解できる。	30
第12回 /	精神障がい治療の歴史的な流れ ・我が国における精神医学・精神障がい者の処遇の歴史 ・精神障がいと社会学—スティグマ	講義	復習： ・我が国の精神障がい者の処遇の歴史について理解できる。 ・逸脱行為とスティグマについて理解できる。	30
第13回 /	精神保健および精神障がい者福祉法に関する法律の概要 ・精神保健に関する法の概要 ・権利擁護・精神科看護倫理綱領 ・日本の精神医療の現状と今後の動向	講義	復習： ・精神障がいの者の人権を擁護する規定としてどのような内容があるか理解できる。 ・我が国の精神医療の現状と今後について理解できる。	60
第14回 /	我が国の精神保健福祉対策 現代社会とメンタルヘルス ・入院医療中心から地域生活中心へ ・地域支援体制の整備	講義	復習： ・現代社会におけるメンタルヘルスの課題について理解できる。 ・我が国の精神保健福祉対策について理解できる。	60
第15回 /	ゲストスピーカーの語りからの学び ・地域で生活している精神障がいのある当事者による病の体験や日常生活の語りを聴く。 ・グループワーク	当事者参加型授業	復習： ・当事者の語りを聴講し、学びと感想をレポート提出する。	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	基礎看護学概論 I Nursing Science Overview I	1単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	看護学の全体像を概観し、看護の歴史的背景および看護の本質となる「看護」「健康」「人間」「環境」の概念などについて広い視野から学び、看護の機能と役割、対象の全人的理解のための基礎的知識を養う。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 看護の定義、看護とは 看護の役割と機能 看護の対象としての人間 看護の提供 	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 看護の定義・役割・機能と、看護の視点からみた人間、環境と人間とのかかわりを理解する。 現在わが国の問題点となっている少子化や高齢化の進展、医療提供の場の拡大、看護者を取り巻く状況の変化などを念頭に、多様化している人々の健康に対するニーズを考える 保健・医療・福祉の分野において求められている看護の役割や機能とはどのようなものなのかについて学ぶ。
-------	--	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

前半は、看護とは何かについて看護の歴史、看護の祖であるナイチンゲールの働きなどから紐解き、そこから看護のもつ役割や機能、看護の質の保証などについて、さらに看護の対象である「人間」の理解について学び、生涯発達し続ける存在としての理解を深めていきます。
後半は、国民全体の健康状態やライフサイクルなどについて統計を参考にしながら学び、さらに看護の提供の仕組みについて看護制度や政策、サービス管理などの視点から学びます。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

1年次春学期「生活援助技術論Ⅰ」、秋学期「生活援助技術論Ⅱ」の理解に繋がります。
内容に合わせて iPad mini を使用しますので、指示に従って持参してください。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 著者名：茂野 香おる、長谷川 万希子 他 出版社：医学書院	1. 書名：看護の基本となるもの 著者名：ヴァージニアヘンダーソン 訳：湯槇 ます、小玉 香津子 出版社：日本看護協会出版会 2. 書名：現代に読み解くナイチンゲール看護覚え書き 著者名：南 裕子 他 出版社：国際看護師協会

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	看護の対象は、病気の人に限らず、個人・集団などあらゆる人が対象であることを理解できる。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践		
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践		
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	身体的・精神的・社会的に健全な状態（Well-being）をめざし、対象のニーズを捉えつつ、援助していく重要性を理解する。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護の知識や能力を向上させるため、積極的に学修に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力	疑問点・不明点について、教員に確認・相談などの行動がとれる。	○
	③ 実行力	『授業記録』に積極的に取り組み、学びを深めようと努力できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	授業に対する予習・復習など、自分のペースで計画して取り組める。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	『授業記録』、グループワークで自身の考え、意見を分かりやすく表現することができる。	◎
	② 傾聴力	授業内容や意見発表などで相手の説明をよく聞き、理解に努めることができる。	○
	③ 柔軟性	『授業通信』、発表の場を通じ、他の意見、自分とは異なる考え等を理解し、受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	課題提出期限 他、授業におけるルールを守り行動できる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価									
指標と評価割合		試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンタリー等)	合計
総合評価割合		55	15					30	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力	20	5						25
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								
	特定の健康課題に対応する実践能力								
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力	15	5						20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力	20	5					30	55
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力								
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力								
	地域の健康危機管理能力								
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力								
	専門的自立と継続的な質の向上能力								
具体的な達成の目安									
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安				
<ul style="list-style-type: none"> ・「看護」とは何か—について、その目的、対象、役割・機能について、自身の言葉で述べる ことができる。十分な理解ができている。 ・健康の捉え方、国民の健康状態について（統計サービス）、十分に理解している。 ・看護の対象、および看護の提供者や提供の仕組みについて十分理解している。 ・看護における倫理の必要およびその仕組みについて十分理解している。 					<ul style="list-style-type: none"> ・「看護」とは何か—について、その目的、対象、役割・機能について、述べる ことができる。 ・健康の捉え方、国民の健康状態について（統計サービス）、理解している。 ・看護の対象、および看護の提供者や提供の仕組みについて理解している。 ・看護における倫理の必要およびその仕組みについて理解している。 				

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス：看護とは何か	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、個々が考える看護師のイメージ、看護師がどう見られてきたかなどを考え、要点をとらえ復習する。	90
第2回 /	看護の概念と対象の理解	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第3回 /	看護の歴史的変遷と今後の展開	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第4回 /	看護の機能と役割、法的位置づけと看護実践の特徴	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第5回 /	看護の諸理論	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第6回 /	倫理と専門職としての看護	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第7回 /	看護の提供の仕組み	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90
第8回 /	保険医療の概念と看護活動・看護実践の場	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、課題について要点をまとめ復習する。	90

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めて決めた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	基礎看護学概論Ⅱ Nursing Science Overview II	1単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	看護理論家が提唱してきた看護の概念とその構造について学修し、看護理論に対する興味・関心を深め、看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く。					
キーワード	・看護理論 ・看護の概念	学修教育目標	看護理論とは何か等、それぞれの看護理論家が提唱している看護の諸概念および構造について具体的に学ぶことで、今後看護実践していく上で必要な理論的基盤を築くとともに、看護の本質について深く考え、自己の看護観の発展につなげる。			

授業科目の概要及び学修上の助言

看護理論とは何かについて、様々な看護の概念や定義に加え、代表的理論家の提唱する看護理論について学習します。実際の看護場面において活用し、看護を展開していくための重要なものです。講義形式だけでなく、グループディスカッションや発表も行いながら理論の活用についての体験も計画しています。予習・復習しながらしっかりと学びましょう。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

春学期の「基礎看護学概論Ⅰ」で学んできた看護理論家に加え、さらに多くの理論家が提唱してきた看護の概念などの触れる科目です。実践場面でどのように理論を活用するのかを学びますので、春学期科目の知識を活用できるよう復習しましょう。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：看護学基礎テキスト第1巻 看護学の概念と理論的基盤 著者名：野嶋佐由美 出版社：日本看護協会出版会	書名：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 著者名：茂野香おる、長谷川万希子 他 出版社：医学書院 書名：看護の基本となるもの 著者名：ヴァージニアヘンダーソン 訳：湯楨ます、小玉香津子 出版社：日本看護協会出版会
--	--

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	人間のもつ生理的ニードをはじめとする欲求やセルフケアへの欲求などを理解しその活用について学ぶ。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	人間の成長発達に関する理論を理解し、その活用について学ぶ。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践		
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	環境やその場の状況に応じた人間の心理社会的反応などを理解しその活用について学ぶ。	○
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	看護理論の理解に向けて積極的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	グループメンバー・教員に積極的に働きかけ、疑問点などを解決しながら学修に取り組める。	◎
	③ 実行力	授業に前向きに取り組む、グループワークや『授業記録』で自身の考えを表現できる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力		
	② 計画力	授業に対する予習・復習等、自分のペースで計画し取り組むことができる。	○
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	様々な理論を学び、実践場面での活用の仕方についてグループで検討し、対象理解につなげる。	◎
	② 傾聴力	メンバーの意見に耳を傾け、理論の活用についての意見交換し学びを深めることができる。	◎
	③ 柔軟性	グループワークや発表の場において他の意見、自分とは異なる考えを理解し受け入れることができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	授業におけるルールを守り、メンバーと強調して行動することができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性		

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15					30	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力		20	5					10	35
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		20	5					15	40
	特定の健康課題に対応する実践能力		15	5					5	25
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力									
	専門職者として研鑽し続ける基本能力									
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>代表的な看護理論について理解ができ、「実際場面での活用」というグループディスカッションでの体験において、活発に意見交換しながら活用の仕方を理解し自分の言葉で表現することができる</p>					<p>代表的な看護理論について何とか理解することができ、「実際場面での活用という場面においては、試行錯誤しながら模索することで活用ができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	ガイダンス・看護理論とは何か 看護のメタパラダイム	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。	60
第2回 /	看護理論を実践に活かすプロセス（1） 「環境に焦点を当てた理論」：フローレンス・ナイチンゲール	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、ナイチンゲール看護論の要点をまとめ復習する	60
第3回 /	看護理論を実践に活かすプロセス（2） 「ニーズに焦点を当てた理論」：バージニア A・ヘンダーソン 「ヘンダーソンの 14 の基本的ニーズを用いた対象理解」	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、ヘンダーソン 14 の基本的ニーズについて要点をまとめ復習する。	60
第4回 /	看護理論を実践に活かすプロセス（3） 「セルフケアに焦点を理論」：ドロセア E. オレム	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、セルフケア理論について要点をまとめ復習する。	60
第5回 /	看護理論を実践に活かすプロセス（4） 「臨床技能の習得段階とナラティブによる看護の創造」： パトリシア・ベナー	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく。 ・授業終了後、臨床技能の習得段階とナラティブについて要点をまとめ復習する。	60
第6回 /	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（1） 看護における技術とは、科学的な思考とは	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく	60
第7回 /	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（2） 看護技術の倫理性とは	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく	60
第8回 /	看護を実践していくために必要な理論的基盤を築く（3） 看護実践能力とは	講義	・テキスト（今回の授業内容に該当するページ）を読んでおく	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	基礎看護学実践実習 I Basics Nursing Practice Training I	1単位	必修	実習	1年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	基礎看護学実習 I は、初めて病院で行なう実習である。 看護活動の場の1つである病院・病棟の構造や機能を知り、入院を余儀なくされた対象者とのコミュニケーションを通して療養環境や日常生活行動の変化および心理的な変化を学ぶ。また、看護師による看護場面の実際を見学することにより看護師の役割について学ぶことを目的とする。					
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の構造・機能 ・コミュニケーション ・療養環境 ・日常生活行動 ・看護師の役割 	学修教育目標	病院・病棟の見学、看護場面の見学および受け持ち患者とのコミュニケーションやケアの体験、見学を通して、看護に対する基礎的知識および態度について学ぶ。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
初めての病院実習であるが、受け持ち患者をもち一人の患者とゆっくりコミュニケーションを図り、関係性を築くことに主眼を置き、患者がどのような環境で療養し、どのような看護を受け、どんなことを考えたりしているのかについて感じ、学んで欲しい。 また、看護師が患者にどのように関わり援助しているのか、その役割についても感じ、考えてほしい。 初めての体験なので緊張もするが、教員や指導者がつねに身近で支援する環境であるので、安心していろいろなことを見て・聞いて・学んで欲しい。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
1年生で学ぶ「基礎看護学概論Ⅰ」「基礎看護学概論Ⅱ」「看護方法論」「生活援助技術論」「ヘルスアセスメント」などで学んだ知識や看護とは何かーについて考えてもらいたい。とくに、療養環境や病床環境のあり方、整え方、コミュニケーションの図り方など看護の基本となる点について予習して臨んでもらいたい。						
教科書			参考書・リザーブドブック			
基礎看護学概論Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト 看護方法論、生活援助技術論、ヘルスアセスメントで使用したテキスト			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	入院している受け持ち患者の生活の状態について理解する				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	受け持ち患者の年代とその影響について理解する				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	受け持ち患者がどのようなケアを受けているのかを理解する				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	臨地における看護の知識や技術を学ぶために積極的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	受け持ち患者にコミュニケーションを通して働きかけ、関係性を築くことができる。				◎
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力					
	② 計画力	毎日の実習での行動について主体的に計画することができる。				○
	③ 創造力	対象の生活や心理状態についてその人の立場に立って考えることができる。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	受け持ち患者について、実習についての疑問点など自分から確認したり、相談することができる。				○
	② 傾聴力	受け持ち患者の言動、指導者・教員の助言に耳を傾け聴くことができる。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	集合時間や提出時間など実習の規律、グループでのマナーを守り行動することができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	周囲との関係性を築くうえで必要な支援を求めることができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	患者の個人情報を守る事ができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								30	30
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								30	30
	特定の健康課題に対応する実践能力									
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								20	20
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								20	20
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>病院という環境や患者が療養している病棟・病床環境、患者とのコミュニケーションを図り患者がどのようなことを感じているのか、看護師の役割など実習の目標とする内容について、根拠づけも含めて十分な理解ができている。</p>					<p>病院という環境や患者が療養している病棟・病床環境、患者とのコミュニケーションを図り患者がどのようなことを感じているのか、看護師の役割など実習の目標とする内容について、なんとか一通りの理解・表現ができている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	<実習準備> 1. 基礎看護技術の実技試験 注) 実習準備の一環として実技試験合格を目指す	演習	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎・臨床看護技術（動画参照）	90分×5回 以上 エビデンスに 基づいた正確 な実施を目指 す
第2回 /	2. 実習ガイダンス（11月初～12月末） * 実習のねらいを説明し実習に向けて必要な学習 および整理 （事前学習課題の提示） * 基礎看護技術の学内演習 既習の看護技術について演習	演習	* 技術援助についての学習（知識の整理 : 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） * 基礎・臨床看護技術（動画参照）: 技術実施	90分×5回 以上 スムーズに 安全で確実な 実施を目指す
第3回 /	3. 実習オリエンテーション（1月中旬:実習開始前1週間） * 全体オリエンテーション 実習目的・目標、実習の進め方、記録の仕方などについ て 実習に臨む姿勢・態度、看護者としての倫理観など、 * 事前学習内容（知識）の整理、技術演習	演習	* 技術援助についての学習（知識の整理 : 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） * 基礎・臨床看護技術（動画参照）: 技術実施	60
第4回 /	<臨地実習> 初日: 学内日: 実習計画の点検、看護技術の確認など	学内実習	* 技術援助についての学習（知識の整理 : 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ） * 基礎・臨床看護技術（動画参照）: 技術実施	60
第5回 /	2日目: 臨地初日 病院オリエンテーション 病院の概要、看護部の概要、院内見学 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の紹介 カルテから情報収集、指導者・教員からの説明 患者とのコミュニケーション	実習	* 実習した内容や考察を実習記録に記載する	60
第6回 /	3日目: 臨地2日目 情報収集、コミュニケーション 看護師に就いて看護場面の見学や体験をする 療養環境を理解する	実習	* 実習した内容や考察を実習記録に記載する * 前日の記録についての指導内容をもとに修正追加す る * 必要に応じて、基礎・臨床看護技術（動画）で 技術確認する	60
第7回 /	4日目: 臨地3日目 コミュニケーション 看護師に就いて看護場面の見学や体験をする 最終カンファレンス	実習	* 実習した内容や考察を実習記録に記載する * 前日の記録についての指導内容をもとに修正追加す る * 必要に応じて、基礎・臨床看護技術（動画）で 技術確認する	60
第8回 /	5日目最終日: 学内日: 実習のまとめ・振り返り 実習の学びについてグループ毎にまとめ発表する 他グループの発表を聞き、学びの共有を図る 記録の最終整理、提出 個人面接 ※詳細については実習要項参照	学内実習	* 実習した内容や考察を実習記録に記載する * 前日の記録についての指導内容をもとに修正追加す る * 必要に応じて、基礎・臨床看護技術（動画）で 技術確認する	60

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	基礎看護学実践実習Ⅱ Basics Nursing Practice TrainingⅡ	2単位	必修	実習	2年次	秋学期 （集中講義）
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	健康問題を持ち入院を余儀なくされた対象者とのかかわりを通し、看護過程を用いて対象者を理解し、解決すべき問題を判断した上で対象者の日常生活を整えるための援助の実際を学ぶ。また生命の尊厳と看護者としての倫理観を養う。					
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程の展開 日常生活援助 病態生理 生活過程 安全、快適 倫理観 	学修教育目標	受け持ち患者を1名担当して看護過程を展開する。 したがって、患者の疾病（病態生理）を理解し、日常生活に及ぼしている問題点を明らかにしていくことで、その生活過程を安全で快適なものに整えることを目指し、援助を提供できるようにする。 看護を実践する上で看護過程の展開というスキルが重要かつ欠かせないものであることを学ぶ。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
受け持ち患者とのコミュニケーションや看護ケアを通して、患者が抱えている生活上の問題をとらえ、その問題の解決に向けて必要な援助を実施し、評価するという一連のプロセスを実際に臨地実習の中で辿っていくことになる。患者の状態は日々変化して行くため、把握することは難しく緊張するが、教員・指導者が近くで学生個々に必要な指導や助言をしながらから支援していくため、解らないことなど積極的に解決していけるよう一緒に頑張りましょう。 初めは解らなくても、一つずつ理解できるよう努力していくことが「解る」という実感と楽しさにつながり、それが患者との信頼関係構築に結びつきます。 初めから解る人はいません。一步一步頑張り有意義な臨地実習にしましょう。						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
1年生で学んだ基礎看護学関係の科目だけでなく、「解剖学」「生理学」「倫理学」「心理学」など等、すべての科目が活用されます。 特に日常生活援助技術は、本実習において援助の中心になる技術を学んだ科目なので、しっかりと振り返り再度練習して臨むことが重要です。						
教科書			参考書・リザーブブック			
基礎看護学概論Ⅰ、Ⅱで使用したテキスト 看護方法論、生活援助技術論、ヘルスアセスメントで使用したテキスト 看護過程論、臨床技術論で使用したテキスト			なし			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	患者の入院前の日常生活、身体面、社会面などの状態について観察し分析することができる。				◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	患者の発達段階・課題について考え、何が阻害されているのかを考えることができる。				◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践					
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	患者の疾患がどのような原因で発症したのか、今後何が予測されるのか検討することができる。				◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	患者に必要な看護を見出し、現状の改善・悪化予防など必要な看護について検討することができる。				◎
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	臨地実習に積極的に取り組むことができる。				◎
	② 働きかけ力	受け持ち患者にコミュニケーションを通して働きかけ、関係性を築くことができる。				◎
	③ 実行力	必要と考える援助の実施、疑問点に対する解決の取り組みができる。				○
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	患者の抱えている問題に気付くことができる。				◎
	② 計画力	毎日の実習での行動について主体的に計画することができる。				○
	③ 創造力	収集した情報を元に患者の状況について事実に基づいて推理推察し、対象像に近づくことができる。				◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	患者について、実習についての疑問点など自分から確認したり、相談することができる。				◎
	② 傾聴力	患者の言動、指導者・教員の助言に耳を傾け聴くことができる。				◎
	③ 柔軟性	他者の意見を柔軟に受け止め、活用することができる。				○
	④ 状況把握力	患者の日々の情報をつかみ、その日の状況を把握・理解することができる。				◎
	⑤ 規律性	集合時間や提出時間など実習の規律、グループでのマナーを守り行動することができる。				◎
	⑥ ストレスコントロール力	周囲との関係性を築く上で必要な支援を求めることができる。				○
4. 倫理観	① 倫理性	患者の個人情報を守ることができる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメンシート等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								20	20
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								20	20
	特定の健康課題に対応する実践能力								20	20
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								10	10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								30	30
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>看護過程のプロセスに沿って対象を理解し、看護援助を提供するという実習の目標について、受け持ち患者の理解が8割以上できているかどうかを判断する。対象理解については優先的に理解把握が必要な内容に対する展開が出来ており、個別性を十分に踏まえた内容であり、優先する問題の解決に向けた実践ができています。(優先順位を踏まえた取り組みになっている)</p>					<p>看護過程のプロセスに沿って対象を理解し、看護援助を提供するという実習の目標について、受け持ち患者の理解が6割以上できているかどうかを判断する。看護過程のプロセスは一通り踏めているが、優先順位に沿った取り組みになっていない部分がある。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	<実習準備>（11月初旬～12月中旬） 1. 実習ガイダンス ＊実習のねらいを理解し実習に向けて必要な知識を整理する。 ＊基礎看護技術演習：特に1年次に学習した日常生活援助について演習、手技・留意点などを確認する。	講義・演習	* 事前学習として、必要な日常生活援助のついての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習）	90分×6回
第2回 /	<実習準備> 2. 実習ガイダンス ＊看護倫理、医療安全についての認識を深める。 講義、事例に沿って何が問題なのかを検討する。	講義・演習	知識を想起し、ディスカッションに向け各自で何が問題なのか、何をどうすれば解決に迎えるのか一などについて考え準備する。	90
第3回 /	<実習準備> 3. 実習ガイダンス（11月初） ＊カンファレンスについての実施体験 ロールプレイなどによるディスカッション ＊テーマに沿って主体的に自身の考えを述べる。 相手の意見に耳を傾ける。	講義・演習	カンファレンスによって検討した点、及び自身の参加状況・取組みを振り返り、実習に向け改善する点などをまとめる。	90
第4回 /	<実習オリエンテーション>（2月初：実習開始前週） 1. 全体オリエンテーション 実習目的・目標、実習の進め方、記録の仕方、実習に臨む姿勢・態度、看護者としての倫理観などについて理解する。 ＊知識の整理、技術演習 （秋学期定期試験、臨時再試験、補習講義などを除く実習までの期間を活用し、実習に向けて個々に主体的に計画し進めていく。	学内	* 事前学習として、必要な日常生活援助のついての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習） * 技術についての学修：動画活用	180
第5回 /	<実習オリエンテーション>（2月初：実習開始前週） 2. 病院・病棟別オリエンテーション 病棟の特徴について、入院患者に多い疾患、実習の進め方、初日の行動などについて説明 ＊知識の整理、技術演習	学内実習	* 事前学習内容の追加、必要な日常生活援助のついての学修（知識の整理）を自主的に進める。（予習） * 技術についての学修：動画活用	180
第6回 /	<臨地実習> 2週間の詳細は実習要項参照 1週目 初日 病院オリエンテーション 病院の概要、看護部の概要、院内見学 病棟オリエンテーション 受け持ち患者の紹介、情報収集、アセスメント 受け持ち患者の援助見学	臨地実習	* 日常生活援助各々の根拠、技術手順、観察点対象の疾患についての学修など（予習） * 翌日の行動計画 * 実習した内容や考察を実習記録に記載する。（復習）	180
第7回 /	2日目 援助の実施、評価、報告 ＊受け持ち患者の情報収集、アセスメント	臨地実習	* 実施した援助内容、患者の反応や考察を実習記録に記載する。 * 上記について翌日の援助計画へ反映させ、計画情報のアセスメントを進める。	180
第8回 /	3日目 臨地で得た情報を元に対象理解を図る ＊アセスメントの追加・修正、関連図の作成	学内実習	* 情報のアセスメント、関連図作成	180
第9回 /	4日目 受け持ち患者の不足情報の収集 援助の実施、評価、報告 ＊患者のもつ問題について考える アセスメント、関連図の作成、看護診断	臨地実習	* 情報のアセスメント、関連図作成、看護診断	180
第10回 /	5日目 対象理解に必要な情報の収集 ＊対象の状況とアセスメントの一致を確認 ＊週末に取り組むべき課題の確認	学内実習	* 情報のアセスメント、関連図作成、看護診断優先順位の検討 ※1週目は、対象の理解を進めることが中心	180
第11回 /	2週目 援助の実施、評価、報告 6日目 対象像および看護問題を発表する。 今後の看護提供に向けての方向性を明確にする。	臨地実習	* 関連図、看護診断、優先順位についての発表	180
第12回 /	7日目 問題解決に向けて看護計画を立案する。 計画に沿って援助を実施し、その成果について評価する。	臨地実習	* 看護診断に沿って看護計画を立案	180
第13回 /	8日目 計画に沿って援助を実施し、その成果について評価する。	臨地実習	* 看護診断に沿って看護計画を立案	180
第14回 /	9日目 看護計画に沿って援助を実施する。 またその成果について（臨地最終日）評価する。	臨地実習	* 最終日に向け、看護要約・看護過程の振り返り自己の課題についてまとめる。	180
第15回 /	最終日（学内日） 記録の整理、教員からの指導をもとに追加・修正の必要な点について確認する。 個人面接	学内実習	* 実習内容の復習	180

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従って下さい。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	成人看護学実践実習Ⅰ（急性期） Adult Nursing Practice I (Acute Stage)	3単位	必修	実習	3年次	秋学期 （集中講義）

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>本実習では、既習の成人看護学概論や成人看護学援助論（急性期）で学んだ知識・技術・態度を実践面で活用することを目的とする。主に、手術を受ける周手術期患者および家族への看護に焦点をあてる。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	<p>急性期 周手術期 術後合併症・予防 早期離床 患者教育 早期社会復帰 家族支援 心理的サポート 実習</p>	学修教育目標	<p>対象となる成人期の人々は、多様な社会的役割を有することから、治療としての手術療法に直面し、役割の変更や価値観の修正を余儀なくされる。このような対象を総合的に理解し、健康レベルを的確に判断した上で、個別的な健康問題を解決するための生活支援の具体的方法を学び看護実践に必要な能力および態度を養うことができる。</p>			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>成人期の患者が手術を受けることによって、急に社会生活を中断した患者の心理や手術による侵襲からの合併症を考え、早期の合併症予防を行う看護を学ぶ。周手術期の合併症を考える時に、観察に必要性、検査データ、情報からのアセスメント方法も学んだ内容を実践する。 早期社会復帰を考えて、早期離床の重要性についても学んだ内容を実践する。 急性期の患者の心理・社会的側面に目を向け、入院前から退院後の生活を見据えた関わりができるように日常生活を支援する。 講義で学んだ内容や既学した基礎知識の復習を行って習得しておく。 患者との関わりや実習の学びに積極的に行動し知識の習得をする。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>情報リテラシー、倫理学、解剖生理学、病理学、生化学、栄養学、社会福祉・保障論、薬理学、人間関係論、心理学、疾病論、基礎看護学、看護過程論 老年看護学</p>						
---	--	--	--	--	--	--

教科書		参考書・リザーブドブック				
成人看護学援助論Ⅰに使用したテキスト		なし				

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	個人—家族集団地域を対象とする看護実践	患者の社会背景を理解し、患者、家族の理解を深めて個別性の看護を考え行動が出来、関係性を作る。	◎
②	あらゆる年代の人々に対する看護実践	成人期である患者の年代を中心に考えて、その前後の発達段階を理解して、患者理解が出来る。	◎
③	多様な場で、継続的なケアを提供できる看護実践	急な入院生活を強いられる患者心理や、手術後の精神的・肉体的変化に対応できるケアの提供を考え行動が出来る。退院を見据えた地域連携や療養の場の移行支援について考えることができる。	◎
④	健康—疾患の連続性を踏まえた看護実践	急性期の疾患の知識を深めて疾患別に手術後に起こり得る状況に対応する看護を考え行動が出来る。	◎
⑤	ヘルス・プロモーションや予防を促進する看護実践	急性期患者の情報から周手術期の合併症を予測し、合併症予防を行い早期回復が出来る看護や早期社会復帰が円滑に行える看護を考え行動が出来る。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 （アクション）	① 主体性	主体的に発言や行動が出来、自主的に学び患者との関係性も積極的に作る。	◎
	② 働きかけ力	他の学生への声掛けし、みんなで実習参加が出来るように促すことが出来る。	◎
	③ 実行力	理解出来ない時もそのままにせず解決する行動が出来る。	◎
2. あきらめず考え抜く力 （シンキング）	① 課題発見力	受け持ち患者の問題点が考える事が出来、自分自身の不足分にも気づける。	◎
	② 計画力	受け持ち患者の問題解決の計画を考える事が出来、自分自身の勉強の行動計画を立てることが出来る。	◎
	③ 創造力	受け持ち患者の新たな看護や患者が求める看護を考え行動が出来る。	◎
3. チームで協力し合う力 （チームワーク）	① 発信力	リーダーシップやメンバーシップとして意見をわかりやすく伝えることが出来る。	◎
	② 傾聴力	他者の意見を素直に聞くことが出来る。	◎
	③ 柔軟性	他者の意見や行動に対して、何故かを考えて、お互いに話し合えることが出来る。	◎
	④ 状況把握力	グループ間の雰囲気や理解して何が良くて修正しなければいけない所を考える事が出来る。	◎
	⑤ 規律性	病院、教員グループ間での約束事や期日を守ることが出来る。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	自分のストレスに対して話すことができ、自分自身もストレスコーピングが出来る。	◎
4. 倫理観	① 倫理性	患者や友人や病院での道徳的行動が出来る。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合									100	100
評価の 指標	ヒューマンケアの基本に関する実践能力								10	10
	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力								40	40
	特定の健康課題に対応する実践能力								30	30
	ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力								10	10
	専門職者として研鑽し続ける基本能力								10	10
	地域の健康課題の明確化と計画・立案する能力									
	地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への 継続的支援と協働・組織活動及び評価する能力									
	地域の健康危機管理能力									
	地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策 化する能力									
	専門的自立と継続的な質の向上能力									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 急性期の看護を修得し、アセスメント能力を高め状況判断を行うことが出来る更に状況判断と共に対策も考え行動を行うことが出来る。 急性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考え、新たな看護方法を考える事が出来、患者の状況に良い変化を与えることが出来る。 					<ul style="list-style-type: none"> 急性期の看護を修得し、アセスメントをした状況判断を行った看護が出来る。 急性期の看護を考えると共に、患者の個別性を考えた看護が出来る。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第2回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第3回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第4回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第5回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第6回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第7回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第8回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第9回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第10回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第11回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第12回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第13回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第14回 /	別途、実習要項を参照のこと			
第15回 /	別途、実習要項を参照のこと			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに定めた時間を取りよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	救急処置（含実習） First Aid and CPR Training (including Practice)	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	救急処置の指導内容として、基礎学において事故防止、安全に対する意識を高めさせ「いのちの大切さ」と「なぜ救急法を学ぶのか」について理解する。救急法の基礎知識（心肺蘇生法・止血・意識障害等）、救急処置の実際、災害時への備えと心構えなどを学ぶ。スポーツ傷害防止のためのテーピング実習もとりいれ、傷害防止としてのテーピングの技術を修得する。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	応急処置 心肺蘇生法 テーピング	学修教育目標	スポーツ現場で発生する傷害に対し、応急処置ができる。救急法の基礎知識を理解し、実践することができる。			
-------	------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>救急法の基礎知識や救急処置の実際等を学ぶ。 前回までの授業内容を踏まえて進行していくため、専用のノートを準備し、毎時、予習・復習をして授業に臨むこと。特に、資格取得を目指す学生は、各テキストの該当箇所を予習しておくことが望ましい。また、授業を欠席した学生は、次回授業までに講義ノートを書き写すなどし、内容を理解しておくこと。 理論と実技・評価を交互に繰り返すような方法で実施する。お互いが、処置者と疾病者として分かれて実習を行う。 出席確認は毎時、呼称にて確認する。欠席・遅刻がないようにすること。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「スポーツ医学概論」「スポーツ傷害論」の理解につながる。						
------------------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
なし			書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト 予防とコンディショニング 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂 書名：アスレティックトレーナー専門科目テキスト 救急処置 著者名：公益財団法人 日本スポーツ協会 出版社：文光堂			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	健康・スポーツに関する専門知識を身につける。	救急法の基礎知識を理解し、具体的な処置の手順を説明することができる。	◎
②	健康・スポーツに関する実技実践力を身につける。	救急法の基礎知識を理解し、効果的な処置を的確に素早くできる。	◎
③	リーダーシップやコミュニケーションスキルを身につける。	他者と協力し、適切な処置が実施できる。	◎
④	社会の一員として必要な倫理観や規律性を持ち、適切に振舞うことができる。	ルールや約束を守り、良識ある行動にて授業に参加することができる。	◎
⑤	学修成果を総合的に活用し、計画的に課題解決のために取り組むことができる。	傷病者が発生した際、対応できるための実践力を修得することができる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団の中で自分の役割と責任を判断し、主体性を持って行動することができる。	◎
	② 働きかけ力	集団の中でリーダーシップを発揮し、他者を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。	◎
	③ 実行力	何事にもチャレンジ精神で行動することができる。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、現状を把握する中で課題を抽出し問題を解決することができる。	○
	② 計画力	進捗状況や不測の事態に合わせて、柔軟に計画を修正することができる。	○
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手が話しやすい環境を作り、相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性	他者の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上に活かせる。	◎
	④ 状況把握力	状況を把握し、自分の役割を果たすことができる。	◎
	⑤ 規律性	集団におけるルールを守り、授業に参加することができる。	◎
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスは自己成長を促す機会とポジティブに捉えることができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	傷病者が発生した際、適切な行動をとることができる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			30			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50			5				55
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価					5				5
	チームワークに関する評価					5				5
	関心・意欲に関する評価					5			20	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。 他者評価を受け入れ、自己スキルの向上に役立てることができる。</p>					<p>スポーツ現場で傷害が発生した際の初期行動を説明することができる。 ガイドラインに従い、救急処置を実践できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	なぜ救急法を学ぶのか - 事故・急病者に対する対応策 - コメントシート・受講態度を評価	講義 コメントシート	・救急処置の重要性、スポーツの現場での傷害の評価方法を学修しておく。	30
第2回 ／	多い事故と障害 ①学校の事故と傷害 ②家庭の事故と傷害 ③職場の事故と傷害 コメントシート・受講態度を評価	講義 コメントシート	・熱中症について学修しておく。	30
第3回 ／	外傷に対する救急処置 - 頭部外傷・胸部外傷・腹部外傷・四肢の外傷等の処置方法 - コメントシート・受講態度を評価	講義 コメントシート	・外傷後の救急処置について学修しておく。	30
第4回 ／	テーピングの理論 ・テーピングの目的について（予防、再発防止、応急処置） コメントシート・受講態度を評価	講義 コメントシート	・テーピングの適応と目的について学修しておく。	30
第5回 ／	テーピング実習（1） ①可動域を制限したテーピングの技術 ②テーピングの基本「アンカー」と「サポート」 実技・コメントシート・受講態度を評価	実習（グループにて実習） コメントシート	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第6回 ／	テーピング実習（2） ・足部、足関節 基礎 実技・コメントシート・受講態度を評価	実習（グループにて実習） コメントシート	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第7回 ／	テーピング実習（3） ・足部、足関節 応用 実技テスト・受講態度を評価	実習 コメントシート 実技テスト	・実技テストに向け、練習しておく。	60
第8回 ／	蘇生法の基礎知識と実際 ①蘇生法の基礎知識 ②意識不明、呼吸停止、心肺停止の処置方法 コメントシート・受講態度を評価	講義形式 コメントシート	・心肺蘇生法基礎知識を学修しておく。	60
第9回 ／	蘇生法の実習（1） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート	・心肺蘇生法実技に向けた学修をしておく。	60
第10回 ／	蘇生法の実習（2） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	実習（グループにて実習） 心肺蘇生法効果確認シート	・実技での課題を発見し解決策を考える。	60
第11回 ／	蘇生法と止血処置方法 ・直接圧迫止血法、間接圧迫止血法、止血帯を利用した止血法 実技、心肺蘇生法効果確認シート・受講態度を評価	実習（個別） コメントシート	・三角巾の使い方および止血法について学修しておく。	60
第12回 ／	蘇生法と搬送方法 ・場面に応じた処置と包帯、実際を想定した搬送方法 講義、実技、コメントシート・受講態度を評価	実習（グループにて実習） コメントシート	・搬送法を学修しておく。	60
第13回 ／	一次救命処置のシミュレーション実習（1） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、コメントシート・受講態度を評価	実習（個別の効果測定） コメントシート	・実技の総復習	60
第14回 ／	一次救命処置のシミュレーション実習（2） - 実際にモデル(人形)を使つての実習 - 実技、コメントシート・受講態度を評価	実習（個別の効果測定） コメントシート	・実技の総復習	60
第15回 ／	まとめ	講義形式 実習 実技再テスト	・実技の復習 ・救急処置の必要性をまとめる。	60

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。